【ICA2026 準備委員会】

国際会議等における英語でのアクチュアリー論文発表の勧め

住友生命	勝野	健太郎
三菱ＵＦＪ信託銀行	遠田	健
みずほ信託銀行	横山	大河
損保ジャパン	小西	洋平
ＰＧＦ生命	鈴木	理史

勝野　それでは、「英語での論文発表の勧め　ＩＣＡ２０２６に向けて」のプレゼンテーションを始めさせていただきます。私は、ＩＣＡ２０２６準備委員会の勝野と申します。皆様、よろしくお願いします。

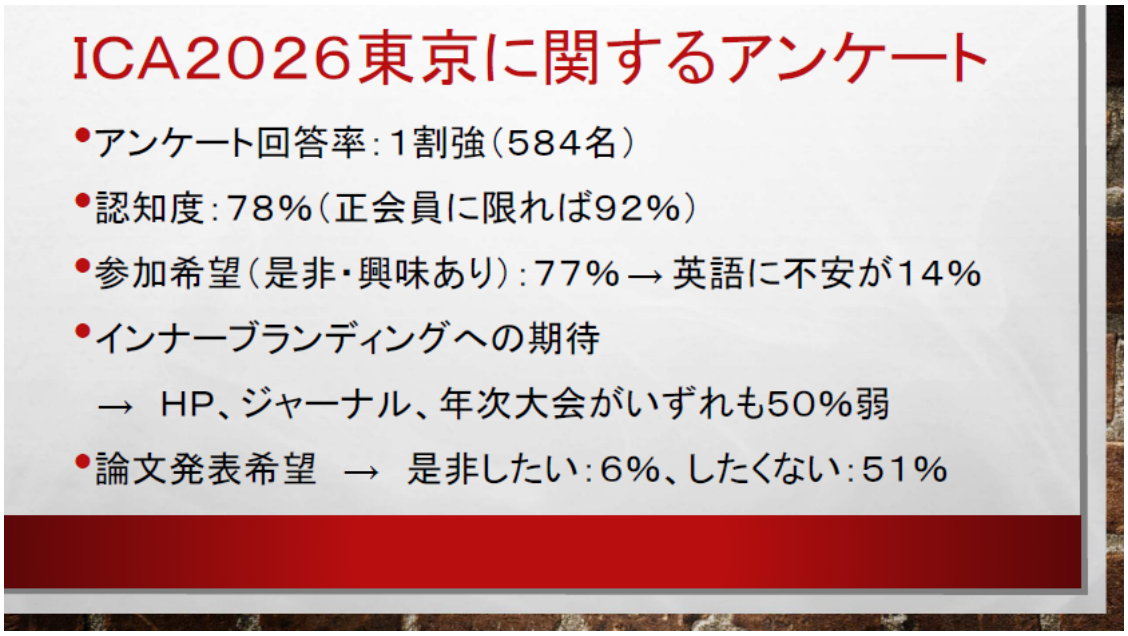
では最初に、本日お集まりいただいている４名のパネラーを紹介させていただきます。最初が、三菱ＵＦＪ信託銀行の遠田様です。続いて、みずほ信託銀行の横山様です。続いて、損保ジャパンの小西様ですが、本日、海外からご参加いただいています。最後に、ＰＧＦ生命の鈴木様です。このあと、４名のパネラーの方には、それぞれご自身のプレゼンテーションの中で、自己紹介や説明を行っていただきます。

では最初に、私の自己紹介をさせていただきます。私は、2001 年に住友生命に入社しています。今回は英語での論文発表がテーマですので、英語と論文に限って私の紹介をさせていただきます。英語に関しては、2008 年にアメリカＳＯＡのアニュアルミーティングに参加しています。発表はせず、聴講のみです。その後、2014 年にＲＧＡ社主催の北米での４週間の研修に行って、英語やアクチュアリアルマターについて勉強をしています。ですから、私自身は、英語での論文発表の経験はありません。一方、論文発表については、過去、年次大会で４回発

表しています。

最初に、本日のテーマであるＩＣＡとは何かについて説明をさせていただきます。ＩＣＡとは、国際アクチュアリー会議、International Congress of Actuaries の略です。これは４年に１回開催されており、直近では 2018 年にドイツ、ベルリンで開催されています。４年に１回ですので次回は 2022 年ですが、2022 年にシドニーで行う予定だったはずが、コロナの影響で 2023 年にリスケされています。２年後の 2022 年にコロナ禍がどのようになっているか分かりませんが、シドニーとしてはＩＣＡを対面で行いたいということでリスケしたところです。

2026 年に日本でＩＣＡが行われますが、これは、1976 年に東京で行われて以来 50 年振りです。2018 年ベルリンでは、100 名以上のドイツ人が論文発表を英語で行っていますので、2026 年東京においても、100 名以上のアクチュアリーに英語で論文発表を行っていただきたいと思い、本日のパネルディスカッションを企画したところです。



先日、会員の皆様には、ＩＣＡ２０２６東京に関するアンケートをさせていただきました。回答率は１割強です。認知度は 78%でしたが、正会員に限れば 92%で、非常に高い認知度になっています。参加希望についても「是非参加したい・興味あり」方が８割近くいます。一方で、英語に不安を感じている方が、大体７人に１人います。また、インナーブランディングへの期待については、ホームページ、ジャーナル、年次大会が、いずれも 50%弱の希望がありました。今回の年次大会のパネルディスカッションで、皆様に周知を図りたいところです。併せて、同時に取らせていただいたアンケートですが、論文発表の希望は「是非したい」が６％で非常に少ない。逆に、「したくない」方が半数以上という残念な結果になっています。

ところで、本日のパネルディスカッションは Slido を使っており、Live polls で皆様への質問を投げかけさせていただいています。質問の中身は「英語で論文発表をしたいですか？」ですが、もしよろしければ、皆さんご回答いただければと思います。実は、皆様にこのことをお伝えする前に、もう既に気づいた方がいらっしゃって、回答していただいていますが、現時点で「英語で論文発表をしたい」方が６割以上います。このプレゼンテーションに来ていただいている方のみですので、少しバイアスはかかっていますが、非常にうれしい結果です。また、Slido に関しては、質問も受け付けていますので、適宜質問をお寄せいただければ、司会の私から質問を読み上げ、私やパネラーの皆さんに回答をいただきたいと思います。

ＩＣＡ２０２６で日本人アクチュアリーに論文発表いただくにあたって、私は二つのハードルがあると感じています。一つ目が、論文を書かなければいけないことです。毎年、年次大会で論文発表がありますが、どれくらいの方が発表されているかというと、全体の中では比較的割合が低いです。この論文を書くことに関して申し上げると、アメリカのアクチュアリー会の年次大会では、準会員も発表をしており、非常に活発に行われています。

一つ、私から皆さんに申し上げたいこととしては、論文を書こうとすると、自分の論文など大したことないといった思いになり、なかなか書こうという自信につながらないことがあるかと思いますが、私がいつも思うのは、全員が満足する論文など存在しないということです。私自身は自分の書いた論文が好きですが、それが評価されるかどうかは人それぞれです。例えば、

私自身は生命保険の人間ですので、生命保険の論文には非常に興味を持つ一方で、年金の論文に関しては、残念ながら興味が低いところがあり、つまり、それぞれの人の属性によるので、誰か１人にでも自分の論文が届けば良いと考えてもらえればと思います。もちろん、自分よりシニアな方は自分より知識があって、それに比べて自分は劣るかもしれませんが、逆に、自分よりヤングの方に色々なことを伝えていただければと思います。

二つ目のハードルは、特に私が感じているハードルですが、英語で話すことです。これに関して私自身がやっていた解決策は、プロンプターを使うことです。プロンプターは、よく大統領や偉い人のここに透明の画面があって、自分の話す内容が書いてあるといったものです。実際に本物のプロンプターを使うことはできませんが、例えば、Word に読み上げ原稿を書いてやり、ここにパソコンがありますので、読み上げ原稿をどんどんスライドしていくわけです。そうすると、見ている方からは、読み上げ原稿を読んでいるようには見えず、プレゼン資料を見ているように見えますので、そのようにプロンプターを使うことは、一つの解決策として、私自身は非常に重要だと思います。

もう一つは人に頼ることで、特に質疑応答ですと、相手の言う英語が聞き取れないと答えられないので、そのときは、同じ席にいる日本人に訳してもらうといったことをやればいいのではないかと思います。

私からの説明は以上ですが、本日、私より優れた４名のパネラーがいらっしゃいます。この４名の方は皆さん、英語での論文発表を経験していますので、そこで培った知見等を皆さんに対して公表いただきたいと思っており、順番にプレゼンテーションを行っていただきます。現時点で私への質問はありませんので、遠田様、横山様、小西様、鈴木様の順番で、プレゼンテーションを行っていただきます。

それでは、遠田様、よろしくお願いいたします。

国際会議での発表のすすめ

2020年11月6日

三菱UFJ信託銀行株式会社
年金コンサルティング部
遠田　健

三菱UFJ信託銀行　MUFG

遠田　では、始めたいと思います。三菱ＵＦＪ信託銀行の遠田と申します。よろしくお願いいたします。私からは、「国際会議での発表のすすめ」について、体験談等をこの場でお話しさせていただき、皆様の今後のお役に立てればと思っています。

はじめる前に・・・

Question　国際会議での発表に興味ありますか？

YES　まずはテーマを探しましょう。
できればアクチュアリー会の年次大会で発表しましょう。

NO　もしかしたら普段の業務の役に立つかもしれません（個人的見解）

三菱UFJ信託銀行　1　MUFG

冒頭勝野さんからもありましたけれども、「国際会議での発表に興味がありますか？」と、はじめにご質問させてください。今回アンケート機能が使えるということでしたので、アンケートを取らせていただきました。現時点で、63％の方が「興味がある」ということです。この

セッションに参加いただいている方ですので、やはり興味がある方が多いのかと思います。

そのような皆様に向けて、まず「YES」の部分、どのようなテーマで発表をするのかについて、少し私の体験談をお話しさせていただきたいと思います。本日は、アクチュアリー会の年次大会でもありますので、この年次大会をぜひ活用していただければといったことも、お話しさせていただきたいと思います。私の実際の発表の内容はこのあとお話しさせていただきますけれども、年次大会で発表した内容をベースにしておりますので、この年次大会を活用するということは、非常に有効な方法なのかと思っています。

次に「NO」の方ですけれども、今回、「NO」の方に向けては、できれば発表に興味を持っていただきたいと思いまして、その観点でお話をさせていただきたいと思います。私の経験からは、国際会議での発表は何等か業務の役に立つと思います。これは、皆様の所属している会社や部署によってさまざまだと思うのですけれども、私の経験からは、国際会議等で発表した経験があると、業務の中で英語を使う機会、外国人の方とミーティングをするなどといったときに、多少なりとも自信になるなど、役に立ったという実感があります。また、国際会議での発表経験があると、英語を使う仕事も回ってくることもあるかと思います。そのような観点からも、ぜひ発表をされると良いということをお伝えしたいと思います。あとは最近では、本日のようなウェブ会議等がどこの会社でも増えていると思いますし、外国とウェブ会議をするような機会が前より増えてきたという実感もありますので、発表経験が役に立つ機会は今後も増えてくるかと思います。

自己紹介・発表経歴

三菱UFJ信託銀行　2　MUFG

自己紹介

～ 仕事の経歴 ～

2002年～

年金信託部にて数理計算に従事
⇒主にDB年金（当時は適格退職年金）の財政決算、掛金計算、PBO計算を担当

2013年

年金コンサルティング部にてコンサルティングに従事
⇒企業相手に退職給付制度（DB/DC/退職一時金）の制度コンサルを担当

三菱UFJ信託銀行 3 MUFG

続きまして、簡単に自己紹介をさせていただきたいと思います。私の仕事ですが、年金のアクチュアリーとして年金の仕事にずっと携わってきました。2002 年入社で、いわゆる数理計算、年金数理の計算に 10 年ほど携わってきました。英語関連の業務でいえば、外資系のお客様にＰＢＯ計算の報告を英語でするなどで多少携わってきましたが、それほど多くはないです。2013 年からはコンサルティングの業務をしていまして、その中で外国人のお客様とミーティングをする機会があるなど、少し英語に触れる機会があります。繰り返しになりますが、国際会議等で発表をした経験があると、そのような機会が得られやすくなるのかなと思います。

国際会議での発表経歴

～ 発表の経歴 ～

2011年9月@イギリス・エジンバラ

DC制度におけるアクチュアリーの役割
⇒DBからDCに移行する際にその等価性の判断等におけるアクチュアリーの役割について

※個人でテーマを決めて応募、発表

2017年6月@メキシコ・カンクン

中間所得層の老後所得の充実に関する研究
⇒高齢世代が増加しており、格差の拡大している日本で老後所得確保のためにできることは？

※2016年11月のアクチュアリー会年次大会での発表を国際会議で発表したもの。
アクチュアリー会の年金・医療委員会　社会保障問題研究会での共同研究の発表
（ http://www.actuaries.jp/lib/annual/2016-G-01.pdf ）

三菱UFJ信託銀行　4　MUFG

続いて、国際会議での発表の経歴ですけれども、ありがたいことに２回、国際会議に参加させていただきました。2011 年と 2017 年です。2011 年の方は、個人で論文を書いて応募し、他団体から派遣していただきました。このときは、あくまでも自分でテーマを決めて、それをアブストラクトという形で書いて提出し、それが運よく通りまして発表をしています。２回目の 2017 年の方ですけれども、これはアクチュアリー会から派遣していただきました。アクチュアリー会の研究会で、私は社会保障問題研究会に所属していまして、そちらの会の研究発表を 2016 年 11 月に年次大会でさせていただきました。ちょうど４年前で、その頃もちょうど大統領選挙があったときでした。年次大会で発表させていただいた内容と同じ内容を国際会議に応募して、それが運よく通りましたので、アクチュアリー会から派遣ということになりました。２回目の発表の際に年次大会を経由したことで何がよかったかといいますと、研究会での発表ですので、メンバーの皆様に助けていただき、研究やアドバイス等をいただきながらまとめ、プレゼンテーションとして発表できました。その点で非常に助かったと思っています。

発表テーマの探しかた（年金関連）

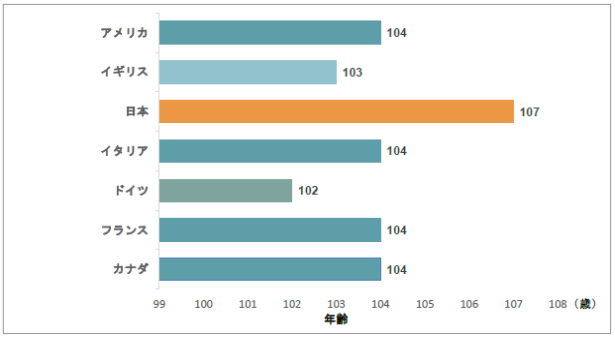
三菱UFJ信託銀行　5　MUFG

世の中の変化

～ 人生100年時代 ～

- 日本は、世界一の長寿社会を迎えている
- 海外の研究（リンダ・グラットンの著書「ライフシフト」で引用されている研究）を元にすれば、2007年に日本で生まれた子供については、107歳まで生きる確率が50%もある

2007年生まれの子どもの50%が到達されると期待される年齢



（注）グラットンの主張には異論もあります。

（出所） 内閣官房「第1回人生100年時代構想会議 資料4-2」より

Point！
高齢化の特に進んでいる日本の状況については、海外のアクチュアリーも興味を持っている！

三菱UFJ信託銀行　6　MUFG

続きまして、発表のテーマの探し方です。それほどたくさんあるわけではないのですけれども、私の経験から、年金関連で少しご紹介させていただきたいと思います。皆様、ご承知のことだと思いますけれども、やはりテーマとしては、世の中の変化に対応したものが興味を持っていただけると思います。ここでは、人生 100 年時代を挙げています。ご承知のとおり、日本は高齢化が非常に進んでいる国ですので、海外の方からも、高齢化の進んでいる日本の現状に非常に興味を持っていただけることが多くあります。論文を書いて発表に至るまでには、それがアクセプトされて初めて実際に発表をすることになりますので、まずは興味を持ってもらえ

る内容を探すという観点が必要です。長寿化については、特に日本からの発表だと興味を持たれるテーマかと思います。

発表の経緯など

三菱UFJ信託銀行　7　MUFG

1回目の発表@イギリス・エジンバラ

～ 正直あまり上手くできず ～

発表した動機

✓周りに何人か国際会議での発表者がおり、楽しかったとのうわさを聞いていたこと。
✓多少の腕試し的な要素。

発表した結果・反省点・その後

✓大した質疑応答もあった記憶がなく、あまり手ごたえなし。（DBからのDC移行というテーマがニッチだった？）
✓国際会議での雰囲気が良くわからず、会食などではほとんど話すことができず。
↓
✓またいつか国際会議で発表したいとの動機づけになった。

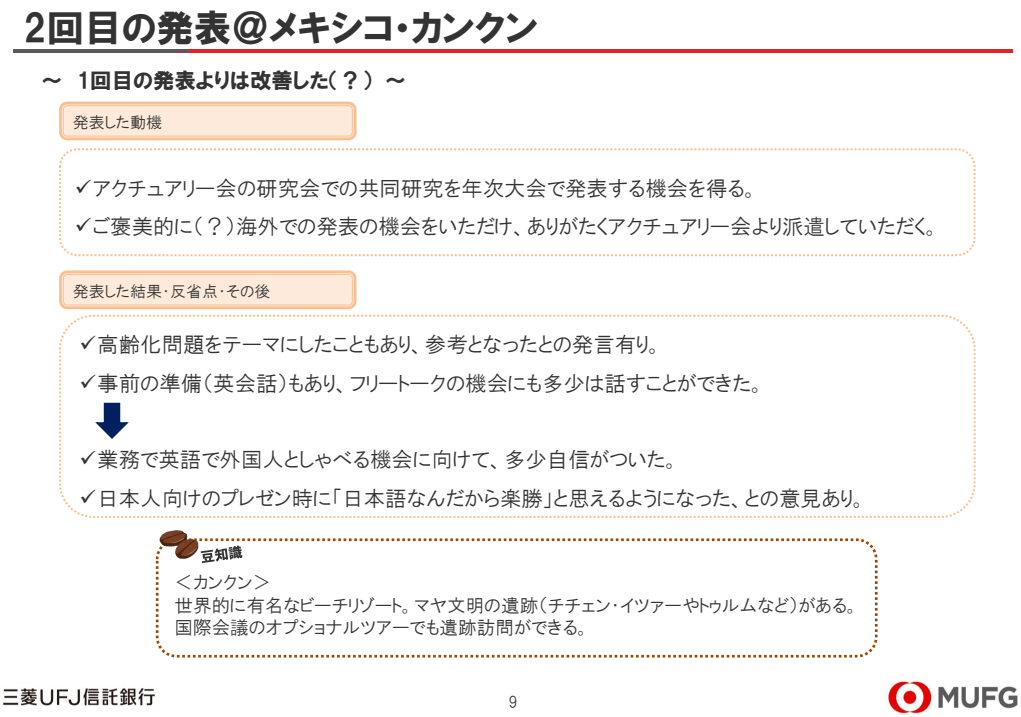
豆知識
＜エジンバラ＞
イギリス・スコットランドの首都。エジンバラ城が有名。

三菱UFJ信託銀行　8　MUFG

では、それぞれの発表のときの経緯といいますか、実際のところを少しお話しします。まず１回目の発表にあたり、個人で応募をしたときで、なぜ発表をしたかという動機の方からお話しします。周りに国際会議で発表した経験者がいて「非常に楽しかった・良かった」といった話を聞いていたので、自分もやってみたいという思いで、応募をしました。あとは、場所もイ

ギリスのエジンバラで、非常によかったので、それもあってやってみたいと思いました。それくらいのきっかけではあります。

実際に発表をした結果ですけれども、それほど反応が芳しくなかったということが正直なところです。質疑応答もあったような記憶もありませんし、内容が「ＤＢ制度からＤＣ制度への移行」という少しニッチな話だったのか、日本ではよく聞くのですが、海外の人からすると、それほどなじみのない話だったのかもしれず、少し反応がいま一つだったといった反省点があります。あとはもう１点、国際会議では、発表以外にも会食やネットワーキング等がありますが、そのような場でいろいろと話をすることが、国際会議の醍醐味でもあるとは思うのですけれど、あまりできなかったと思います。ただ、やってみた結果、やはりもう１回やってみたい、またいつかやってみたいということは強く感じました。これは、私だけではなくて、発表した他の方に聞いても、結構そのような意見を聞きますので、実際にやってみると、またやりたいと思うのではないかと思います。



２回目の方は、先ほど申しましたとおり、アクチュアリー会での研究成果を発表する機会をご褒美的にいただけ、非常にありがたいことに、アクチュアリー会から派遣していただきました。この振り返りですが、テーマとして高齢化問題を選定しましたので、海外の方から参考になったというお話もいただけ、テーマがよかったのかなと思います。

あとは、２回目でしたので、事前の準備に関しても、論文の発表だけではなくフリートークの機会があることも想定していたので、それほど話せたわけではないですけれども、少しは話せるようになったかと思います。その結果として、外国人の方と話をすることに少し慣れたこともあり、業務をするうえでも少し自信になったかと思います。あとは、これは他の人の意見なのですけれども、国際会議でプレゼンをすると、日本語でプレゼンをするとき日本語なので楽だと感じるとのことです。そのような意味でもいいのではないかと思います。

おわりに

三菱UFJ信託銀行 10 MUFG

おわりに

① まずは手を挙げよう

✓まずは日本のアクチュアリー会の年次大会等で発表。論文などに応募。

✓研究会で共同研究して、まとめて発表という方法もあり。

② 発表

✓発表そのものは、英語のスクリプト等を準備すればなんとかなる。

✓できれば、フリートークの準備などしたい。

（フリートークといっても論文関連ネタ）

③ 仕事に役立てよう

✓論文発表の経験を生かして、仕事で英語を使うとBEST

（所属組織によると思いますが、外国人とのディスカッションなど）

三菱UFJ信託銀行 11 MUFG

最後にということで、まとめになりますが、まずは手を挙げようということです。せっかくこのような日本アクチュアリー会の年次大会がありますので、その機会を利用し、論文発表という形でまずはやってみましょうということです。研究会等に所属されている方につきましては、共同研究という形で助けを得ながらやることもできますので、そのようなやり方もあると思います。次に発表についてですが、発表自体はスクリプトを用意するなど、やり方はいろいろとあると思います。さらには、それ以外のフリートーク等で話せると、非常に充実した会議

になると思いますので、このあたりの準備があるといいと思います。最後は、仕事に役立てようということですが、会議で発表した経験を仕事に生かせるとなおいいと思います。

私の発表は以上になります。私のパートでは、論文の書き方や英語の準備のしかた、発表のコツのようなところはお話をしませんでしたけれども、このあとの３名の方から、そのようなお話をいただけると思いますので、楽しみにしていただければと思います。私からは、以上です。

勝野　遠田様、ありがとうございました。Slido では合計三つ質問をいただいておりますが、これはパネラー全員に共通する質問ですので、すみませんが最後のパネルディスカッションの時間に、これらの質問をさせていただきたいと思います。

それ以外に、私から遠田様に一つ質問をさせていただきたいのですが、１回発表をして、もう１回やってみたい、楽しかったという話があったかと思います。また、そもそも周りに何人か国際会議の発表者がおり、楽しかったという話を聞いていたことがあるとのことですが、どのように楽しかったかについて、もう少しお話しいただけるとうれしいです。

遠田　ありがとうございます。楽しかったということは、会議の開催場所が非常によかったこともあるのですけれども、それだけではなくて、準備の過程で自分自身が非常に勉強になったということと、緊張するのですけれども、何とか最後に発表できたという充実感があると思います。

勝野　ありがとうございました。では、続きまして、横山様に発表いただきます。

近代テクノロジーを駆使しまくったら
初めての国際会議で優秀論文に選ばれてしまった件について

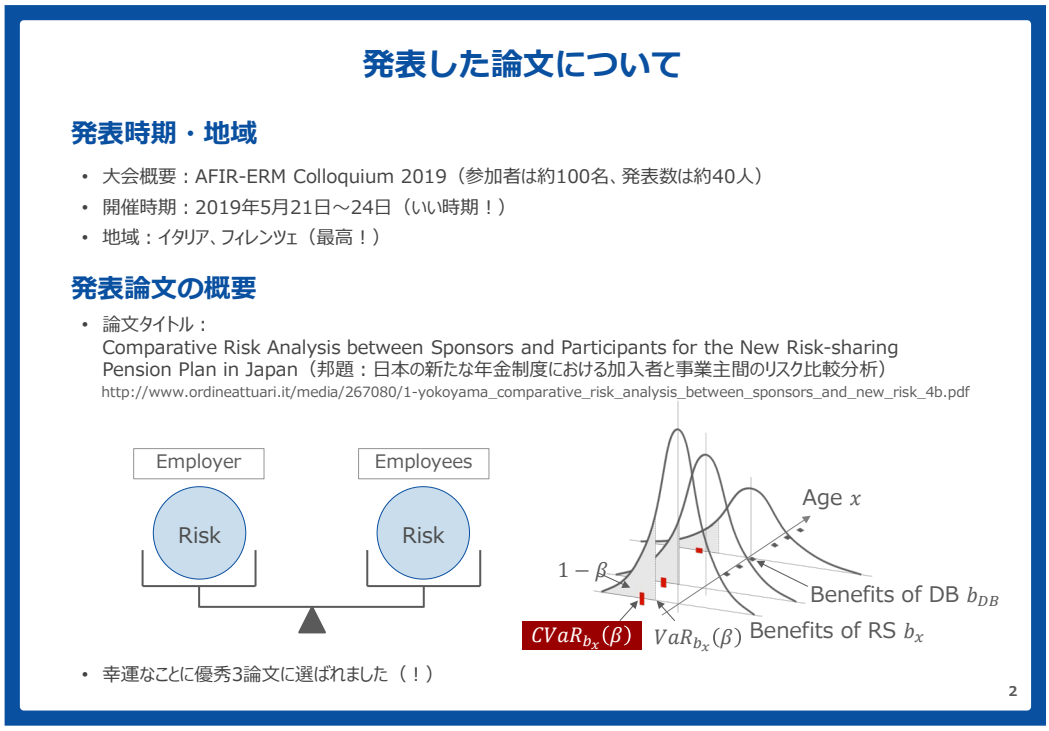
2020年11月6日

みずほ信託銀行株式会社
横山 大河

本発表に記載の内容はあくまで発表者個人の私見であり、
所属する団体からの意見を表明したものではありません。

横山　こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、みずほ信託の横山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私の発表内容は、「近代テクノロジーを駆使することで、英語論文発表のハードルがぐんと下がります」ということをお話しさせていただきます。誰に向けての発表かと申しますと、私がそうであったように、英語論文を書いたことがない。発表もしたことがないし、できる自信もないという方々を想定しています。なお、この出落ち感満載のタイトルは、元々Twitterに冗談で投稿したものなのですが、不幸にもオーガナイザーに見つかってしまいまして、当初のまじめなタイトルから差し替えを迫られたものです。内容は至ってまじめなので、ご容赦ください。

簡単に、自己紹介をさせていただきます。まず、職歴と仕事内容をお話しします。2013 年にみずほ信託に入社し、以来、数理業務を経て、コンサル、年金ＡＬＭと、年金業務の中でいろいろと経験させてもらっています。会社に入るときに受けさせられたＴＯＥＩＣの点数は、平均よりも少し高い程度で、元々英語がとても好き、得意などというタイプではなかったです。続いて海外経験ですが、特にないので、海外旅行で行ったことのある国を並べています。スライド右下に書いてあるとおり、国際会議前の準備として、５日間のフィリピン英語合宿に行ったのですが、時間の都合上、そこは割愛させていただきます。もし興味がある方がいらっしゃれば、ご質問ください。ちなみに、最近行ったところはアイスランドで、雄大な自然な景色やオーロラを見たい、写真に収めたいという方には、非常にお薦めです。



さて、話を戻しまして、発表論文について紹介いたします。私が出席したものは、昨年 2019 年５月にイタリア、フィレンツェで開催された、AFIR-ERM Colloquium です。AFIR-ERM はＩＡＡのセクションの一つで、AFIR-ERM に含まれている「Ｆ」の文字はファイナンスを表しています。発表論文のタイトルは、長いので読み上げませんが、当時、日本で導入されて間もなかった、リスク分担型企業年金にフォーカスを当てた論文でした。ローカルすぎて、提出段階でリジェクトされるのではないかと非常に不安だったのですけれども、大丈夫だったといいますか、なぜか優秀３論文に選ばれたようで、本当にびっくりしました。原因不明なのですが、年金関連の論文が少なかったので、そのあたりが関係しているのかもしれません。

せっかくなので、イタリア滞在中の様子を写真で紹介させていただきます。左側は、会議出席者のメンバーから「夕食、行こうぜ」と誘ってもらったので、ほいほいとついていったときの写真です。このときの貴重な経験は、この発表の最後に紹介させていただきます。右上は、滞在２日めの夜に、フィレンツェの町の散策をしたときのものです。このように、会議終了後は自由に過ごすことができることも、論文発表の醍醐味です。続いて、右下にまいりますが、会議の中日では、丸一日の観光ツアーが企画されていました。私はお酒が大好きなので、ワインツアーを選択しまして、イタリアワイン生産所を巡り、ワインをしこたま飲んで帰ってくるという、素晴らしいツアーでした。写真は、そのときに撮影したワインぶどう畑です。このツアーで、学術委員会の委員長をされている明治大学の松山先生とご一緒しまして、そのご縁もあってか、本日、壇上に上がっている次第であります。

本日お話しする内容

論文発表の経緯

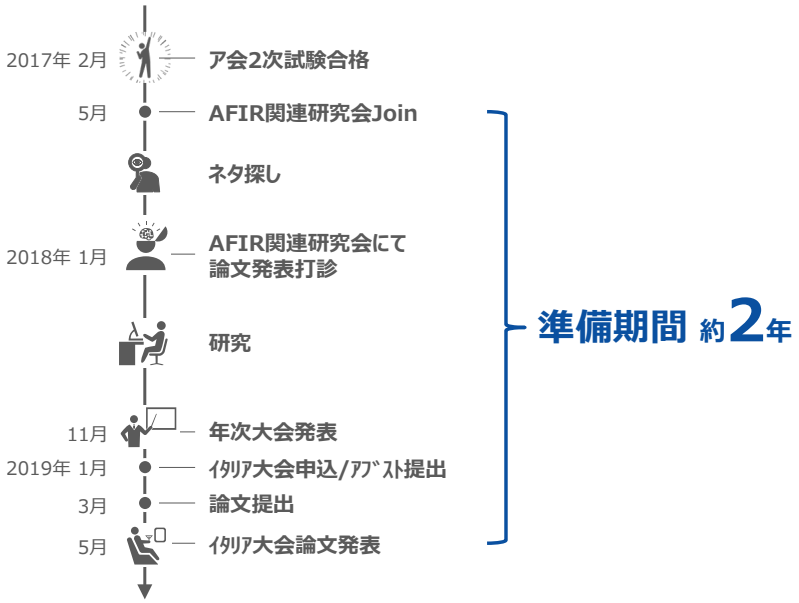
英語論文・発表なんて怖くない、ということ

本当に難しいことはなにか

4

本日は、ごらんの三本立てでお話しさせていただきます。

発表にいたるまで ～余裕をもったスケジュール～

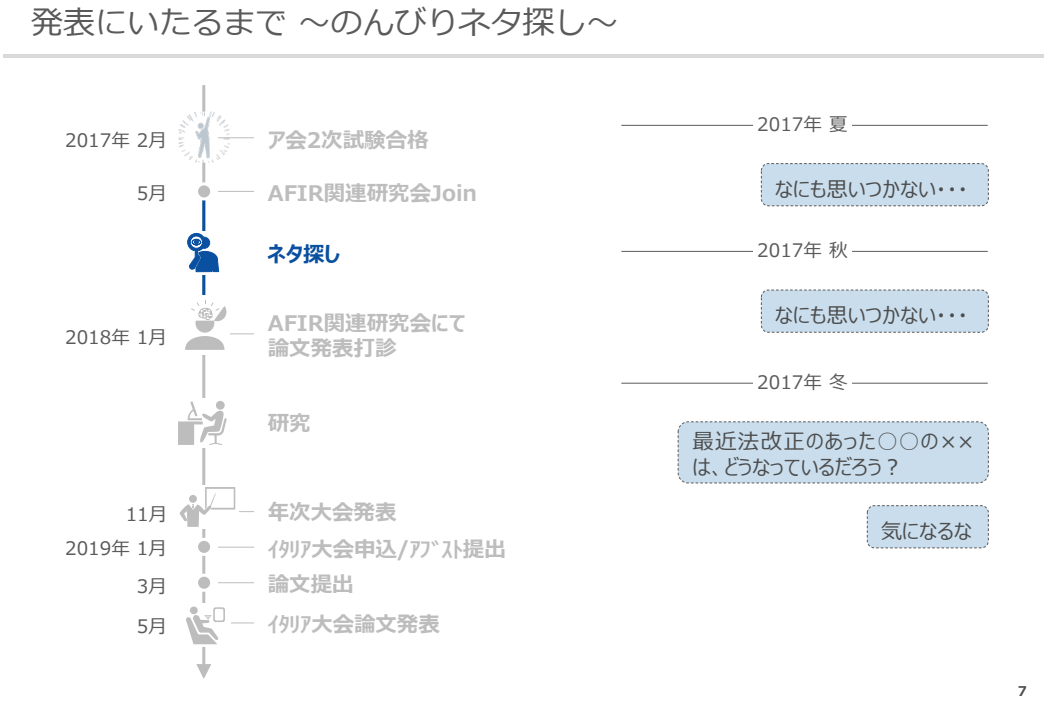


5

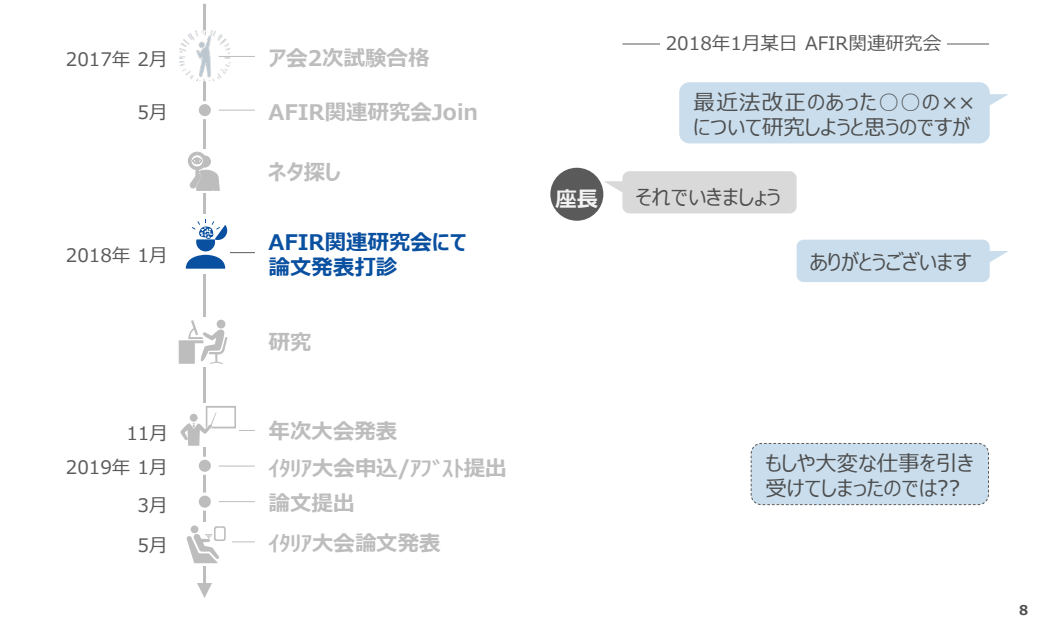
これから、発表の経緯をお話ししますが、その前に、全体のスケジュールをお示しします。上から下へと時間が流れていくようにしておりまして、検討開始のスタートは、2017 年５月に日本アクチュアリー会のＡＦＩＲ関連研究会に参加してからとなります。そこから、2019 年５月のイタリア大会までなので、実に２年間も準備期間がある、余裕を持ったスケジュールでした。

発表にいたるまで ～優しいプレッシャーと不純な動機～

発表のきっかけは、初めて参加したＡＦＩＲ関連研究会の委員会で、山下座長より、「毎年、委員会から１人は国際会議に出席していること、特に新メンバーに期待している」という説明がありました。それを聞いて正直、「いきなり論文と言われてもなあ」、「仕事もあるし、考えている暇ないぜ」、「試験が終わったばっかだから、ゆっくりしたいな」などと考えていました。しかし、「ただで海外に行けて、その間、仕事をしなくていい」ということに魅力を感じたことも確かです。一応補足しますが、山下座長がこの点を強調したのではなく、私の耳のフィルターを抜けてきたものがこの部分ということです。検討はする旨はお伝えしましたが、半ば社交辞令的なもので、このときは、本当に自分が海外で論文発表をすることになるとは、夢にも思っていませんでした。

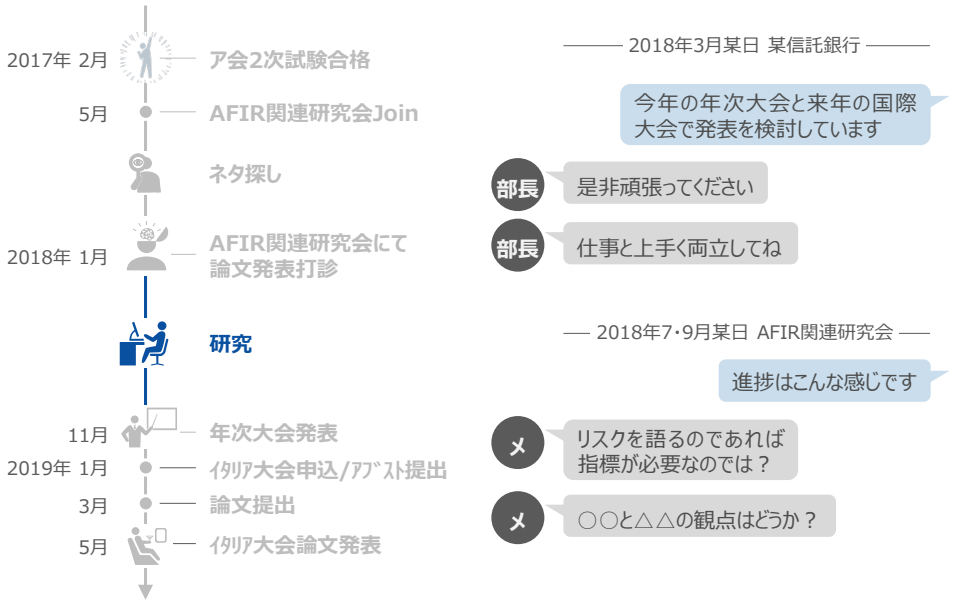


そこからのんびりと、一応頭の片隅に置きながら過ごしていると半年が過ぎ、その頃に、ふと個人的に興味のわくことがありました。



そのネタを、ＡＦＩＲ関連研究会に持っていったところ、承認されてしまいましたので、ここから本格的に研究活動を始めることになりました。内心、かなり不安でした。

発表にいたるまで ～根回しも忘れずに～



9

サラリーマンなのできちんと会社にも説明をして、会社も、専門性に資することなのでと積極的に後押しをしてくれました。研究の進め方としては、全く１人で行うのではなくて、ＡＦＩＲ関連研究会では適宜進捗を報告し、有益なフィードバックをいただきながら進めました。

発表にいたるまで ～締切り間近～

10

そして、無事日本の年次大会での発表を終え、一服していたら、論文提出まで２か月、発表まで４か月と、あまり時間が残っていない状況になっていました。直前にならないとやる気が出ないたちなので、何も準備していません。しかし、これからご紹介するテクノロジーに頼る気満々だったので、不思議と焦りはありませんでした。

英語論文・発表なんて怖くない。テクノロジーに頼ろう

英語論文・発表を助けてくれる翻訳・発音サービスの一例

翻訳	Google Translate	Google翻訳	誰もが一度は使用したことがあると思います。 私の論文作成はほぼGoogle翻訳で仕上げました。
	MiraiTranslate	みらい翻訳	Google翻訳よりも高精度と言われることがあります。 無料のお試し翻訳は2,000文字まで
	DeepL	DeepL	Google翻訳よりも高精度と言われることがあります。 無料の翻訳は5,000文字まで
	Linguee	Linguee	機械翻訳ではなく、実際の訳語をネット上から拾ってくる。 上のサービスで上手く訳せない専門用語・表現に強い
発音 （読上げ）	NaturalReader	NaturalReader	Web上でテキストアップロードから音声ダウンロードまで完結でき使いやすいです。私は行きの飛行機内で音声ファイルを作りました。自然な音声ですがやや機械感は残ります
	Google Text-to-Speech	Google Text to Speech	発音は驚くほど自然であると感じます。 APIを叩いて使用する仕組みなのでハードルはやや高い

この他、英文法チェックサービスとして、「Grammarly」「Ginger」を活用しました

11

ここからは、私が実際に頼ったサービスと類似のサービスを紹介させていただきます。大きく二つ、翻訳サービスと発音サービスがあります。翻訳サービスでは、言わずと知れた Google 翻訳を使用しました。私の場合、日本の年次大会で発表済みでしたので、その原稿を翻訳にかけることで、論文の７、８割を完成させることができました。有名どころの類似サービスとして、みらい翻訳や DeepL があります。これらは、Google 翻訳よりも自然な翻訳ができると言われることも多々ありまして、お薦めです。発表練習には、発音サービスを利用しました。実際に使用したものは NaturalReader で、論文発表における具体的な利用方法については、後ほどご説明いたします。

翻訳サービスを使うときに気を付けたいこと

①主語があっているか

- 日本語は主語が抜けやすく、主語がないまま翻訳をかけると主語が"It"に変換されてしまい、翻訳後の英文では意味を取れなくなることがあります
- 英文をチェックするのはもちろんの他、翻訳をかける前に主語を明記することを意識しました

②受け身の文法ばかりになっていないか

- 日本語では、受け身の文法が頻繁に用いられます（この文章も受け身で書かれている！（さらにこれも！））
- 受け身の英文は冗長な印象を与えるそうです
- 翻訳前後に能動文（無生物主語など）にできないかを良く考えました

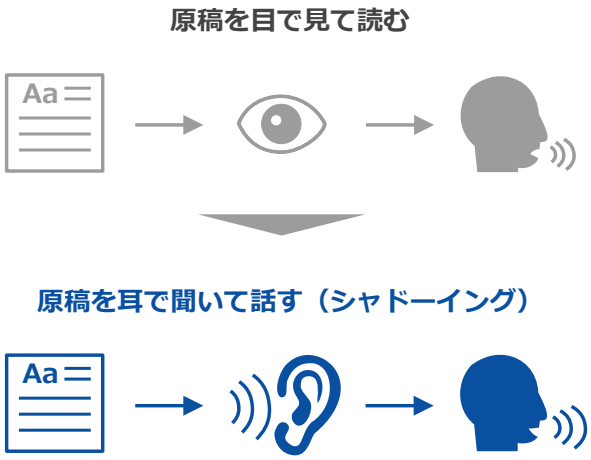
③同じ単語・表現ばかり使っていないか

- 英語では同じ単語・表現を連発して使用することは好まれないと言われています
- 翻訳元の日本語を変える、翻訳サービスを変更する、英英辞書を使うなどを心掛けました
- 文法チェックサービス「Grammarly」では別表現のサジェストをしてくれます

12

翻訳された英語のブラッシュアップも行いました。ここでは、特に気を遣ったことを３点、ご紹介いたします。一つめは、主語のチェックです。日本語ではよく主語が省略されますので、そのまま翻訳をかけると、意味が通らない英文になってしまうことがあります。よく見られるミスは、代名詞の“It”だらけになってしまうケースです。２点めの気をつけたいことは、受け身の構文が多すぎないかということです。英語では、受け身は冗長な印象を与えることがあると言われておりまして、意識的に受動態を減らすことを心掛けました。頭の体操のようで、結構楽しいです。３点めのチェックポイントは、同じ単語・表現だらけになっていないかという点です。英語は、同じ言葉の繰り返しを避ける言語と言われています。従って、より洗練された英文にするためには、意識的に単語・表現を言い換える、つまり、専門用語で言うパラフレーズを行う必要があります。よく多くの表現を使うために、英英辞典や類語辞典、いわゆるシソーラスを頼りました。では、完全にこれらを実践できたのかというと、前半部分は結構頑張りました。しかし、後半部分は力尽きまして、Google 翻訳そのままという箇所が結構多いです。第一印象がよければ、何とかなることも多いでしょう。

原稿を見ずに英語発表をするテクニック



13

さて、ここまでは、英語で論文を書くことに関してお話ししましたが、ここからは、このセクションに参加されている方が不安に感じておられるであろう、英語で話すことに関してお話しします。英語で発表する際は、ごらんのようなフロー、原稿を基に適宜、原稿を目で見て読む、話すことを想像されるのではないでしょうか。この方法では、発表練習に多くの時間を要しますし、もし練習が足りていない場合、発表ではなく、原稿を読むという事態に陥ります。私の場合は、出張当日に原稿が完成したので、日本では全く練習する時間がありませんでした。どのように発表を乗り切ったかというと、目で原稿を追うのではなく、耳から聞いた原稿を話すという方法に切り替えました。

実際の原稿と補助音声

Let’s get started.

A new type of pension plan, called a risk-sharing pension plan, became available in Japan from January 2017.

Today, I’d like to talk about comparative risk analysis between sponsors and participants for this new risk-sharing pension plan.

片耳にワイヤレスイヤホンを装着して音声を聞きました。

14

それでは、実演ということで、小恥ずかしいのですが、これから、実際の論文発表の冒頭部分を再現します。私の耳に補助音声が流れ、私はそれをガイドとしてしゃべります。なお、補助音声は皆様には聞こえません。それでは、やってみましょう。

（英語実演）

いかがだったでしょうか。普通に英語をしゃべっているように見えたのではないでしょうか。この耳から聞こえた英語を発音するという手法は、シャドーイングと呼ばれておりまして、主にリスニングの練習に用いられます。シャドーイングは非常に難しいと言われていますが、それは、速い音声についていかなければならない場合のお話です。実際の補助音声を聞いていただきましょう。

（補助音声）

いかがでしょう。これなら、ついていける気がしませんか。この音声は、先ほどご紹介した、NaturalReader を利用した機械音声ですので、スピードや声質は自由にカスタマイズすることが可能です。多少の練習は必要ですが、原稿を覚える必要がないので、準備時間を短縮することができました。

本当に難しいことはなにか（個人的な意見）

Lv.1 日本語で論文を書き上げること

- 多くの日本人にとって、いきなり英語論文から書き始める事は簡単ではないと思います
- 国内外での英語発表を行うには、まず日本語論文を書きそれを英訳することをお勧めします
- ただ、ガチガチの論文である必要はなく、私のようにア会年次大会のプレゼン原稿をもとにするという方法もあります

Lv.2 質疑応答

- 発表自体は事前準備ができますが、質疑応答は準備がしにくいは想像に難くないでしょう
- 対応するには、想定質問の回答準備、リスニング・スピーキング力の向上といった地道な努力が求められます
- 私は準備が間に合わなかったので、司会の方に英語が苦手である事、困ったら助けてねと伝えていました

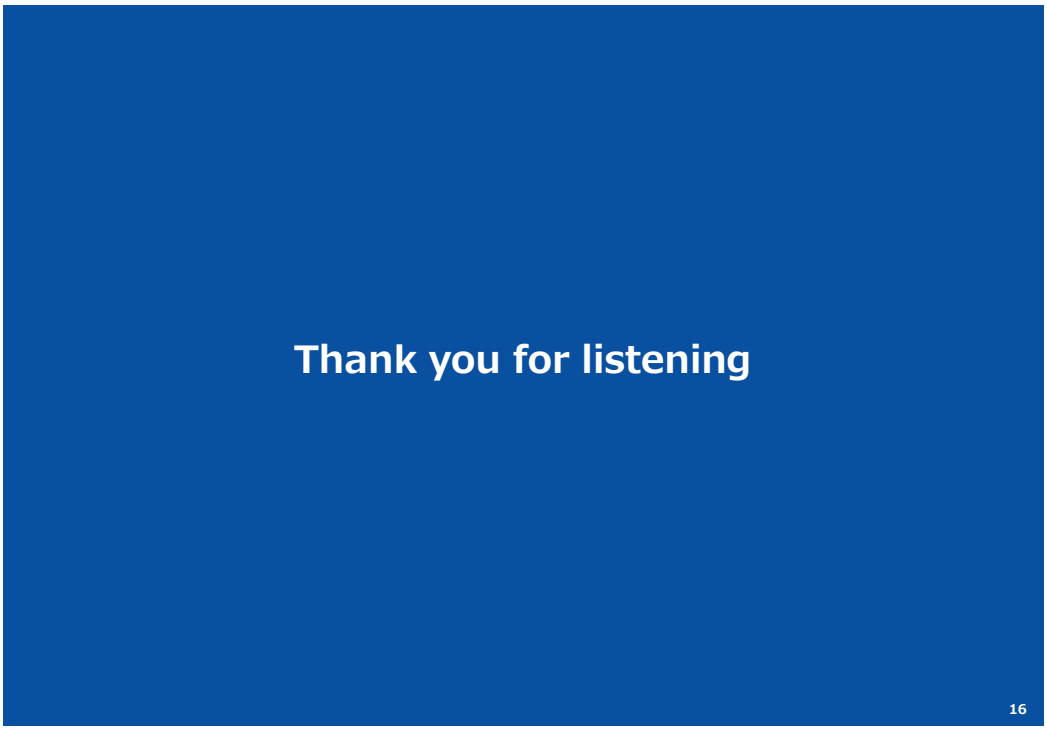
Lv.10 会食・フリートーク

- 雑音の中でのリスニング・スピーキング（アルコール入り）、多国籍のアクセント、雑談力など多くの課題が・・・

ここは**ボーナスステージ**。気楽に楽しみましょう。
→ 日本語論文が完成すれば英語論文・発表はできたも同然

15

最後に、国際会議に出席するに当たり、本当に難しいことはなにかということについてお話しします。第一関門は、論文のテーマを見つけて、研究する。これが大前提となっておりますので、ここをクリアしないといけないということです。とはいえ、2026 年まで時間はまだまだありますので、ゆっくりネタを探して、無理にならない範囲で取り組むとよいと思います。一言で言うと、好奇心を持つことが大切になります。第 2 ステップは、英語で書く、話すということがあると思いますが、そこは、今日の私の話でハードルが下がっていると幸いです。そして、個人的に最も難しかったことは、現地での雑談、会食でした。冒頭の写真でご紹介した会食では、実は話題にほとんどついていけず、にこにこしているだけの時間が結構ありました。悔しい思いもしましたが、ここはボーナスステージであると気負いせず、顔を覚えてもらっただけでもよかったと考えています。



私の発表は、以上となります。ありがとうございました。

勝野　横山様、ありがとうございました。特に実演は、私は今日初めて見せてもらったのですが、本当にアメリカ人がしゃべっているような感じで素晴らしかったです。Slido でも、質問をまた追加で色々と頂戴しておりますが、やはり全体に対する質問ですので、最後のパネルディスカッションの中で質問させていただきたいと思います。

また、私から横山様に一つ質問をさせていただきます。最後のところで「日本語論文が完成すれば、英語論文の発表はできたも同然」と書かれていますが、日本語論文が完成してから英語論文が完成するまで、多分２か月くらいでされているかと思うのですが、実際にどれくらい時間を費やしたかについて教えていただければありがたいです。

横山　実際に、日本語から英語にするところでいうと、１週間もかかっていないくらいでやりました。もうほとんど翻訳サービスをかけて、少し直したということなので、それほどかかっていないです。

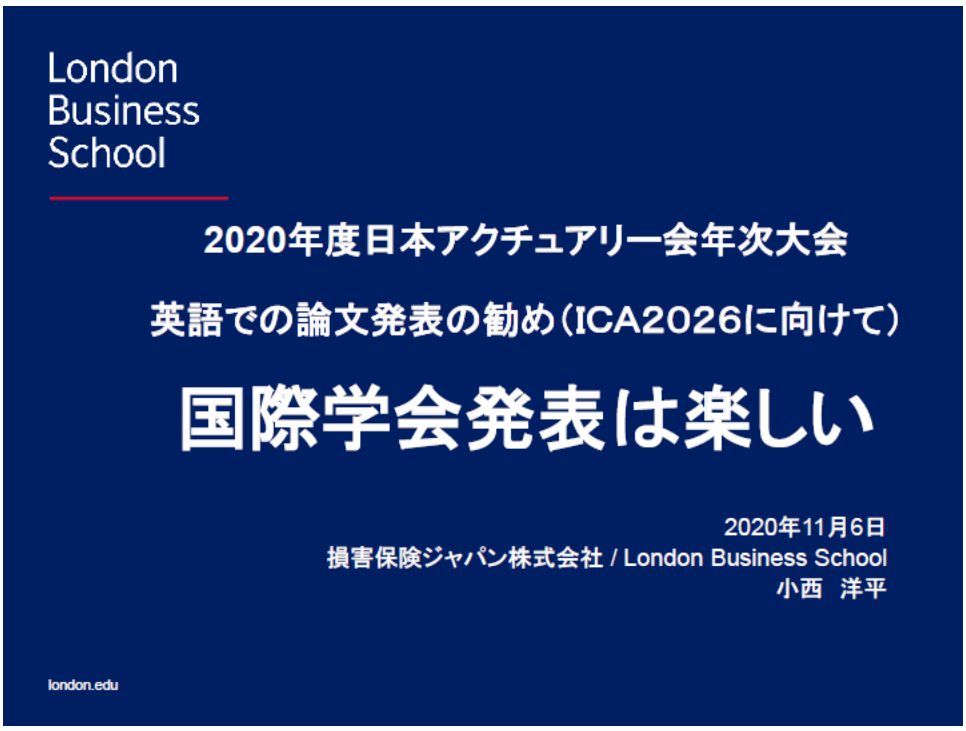
勝野　すみません、衝撃を受けてばかりなのですが、先ほど話していただいたものも、「元々英語が得意だからできたのではないのですか」と言いたくなってしまうのですが、少しそれについても、お話しいただければありがたいです。

横山　英語に関しては特に、座学でずっとやっていまして、YouTube などに発音の動画などがありますので、そのあたりを見て、「あ、こうやって発音するんだな」など、一つ一つ、特に母音ですか。日本語だと母音は、「あいうえお」の五つしかないのですけれども、英語だとそれがたくさんあって、そもそもそのようなことを知らないと正しい発音ができないので、私も

まだまだ勉強中ですけれども、そのあたりを意識しながら勉強をしました。

勝野　ありがとうございました。横山様、ありがとうございました。では続きまして、小西様に Zoom を通して発表いただきたいと思います。小西様、よろしくお願いいたします。

小西　私は小西と申しまして、現在、イギリス、ロンドンからの中継でお送りさせていただきます。具体的なスライドについて、これから映させていただきたいと思います。



では、私からは皆さんに対して、本日は、「国際学会発表は楽しい」ということをお伝えできればと思って、お送りさせていただきます。

さて、そもそもみなさん、発表は好きですか？　多くの人は「不安だ」、「緊張します」、「いや、失敗したらどうしよう」などと思ってしまう方もいると思うのですけれども、今日の私のゴールは、これらの不安をみなさんから取り除くということになります。

London Business School

英語遍歴

	英語勉強環境
大学生時代（応用化学科）	✓毎週英語プレゼン（研究室にはインド人・アメリカ人も）
大学院生時代（応用化学専攻）	✓英語中間発表、国際学会ポスター発表、英語投稿論文2報
2013年4月　損害保険ジャパン入社 6月　八王子サービスセンター課 自動車事故担当者（物メイン）	✓米軍基地軍人の自動車事故対応
2014年4月　東京火災新種保険金サービス第一課 火新事故チームリーダー・災対2回	✓短期海外研修5日間（公募）@イギリス・ドイツに参加・発表 ✓海外子会社集合研修の企画運営（公募）に参加・発表
2017年9月　リスク管理部　保険数理グループ 法定ソルベン・保険計理人補佐・採用	✓中国子会社保険計理人が2か月間社内研修で訪日
2018年4月　HDリスク管理部　グループ保険数理室 G-SIIs・ICS・ComFrame海外社担当 グループ保険数理機能構築 経済価値備金算出・法定ソルベン 災対5回	✓英語資料読解・作成、メール作成、たまに打ち合わせ ✓Sompo Actuarial Conference@マレーシアに参加・発表 ✓海外MBA受験（公募） ✓米国認定損害保険士（CPCU）受験（会社補助金有） ✓ア会海外研修（公募）@アメリカCASに参加・発表 ✓グループ・チーフ・アクチュアリーがイギリス人（202001～）
2020年8月　London Business School 2年制MBAコースの学生	✓66か国532人の同級生と勉強中@イギリス

・英語環境は好き（社内公募を活用し英語に関わる機会を設けてきた）
・TOEIC 975（2017）、TOEFL 106（2019）
・読み聞きは中級、喋り書きは初級

3

さて、おまえは誰だということで、私からも、英語遍歴に関して簡単にご紹介させていただきたいと思います。大学時代、大学院時代は応用化学専攻で化学をやっておりまして、その中では毎週、英語のプレゼンが課せられていまして、私が発表する回もあれば、私がただ単に聞くときもありました。大学院時代に関しては、中間発表や国際学会のポスター発表で英語を使った他、投稿論文も２報、英語で書いております。ですから、英語にはそこそこ、抵抗がない状態で社会人に突入します。

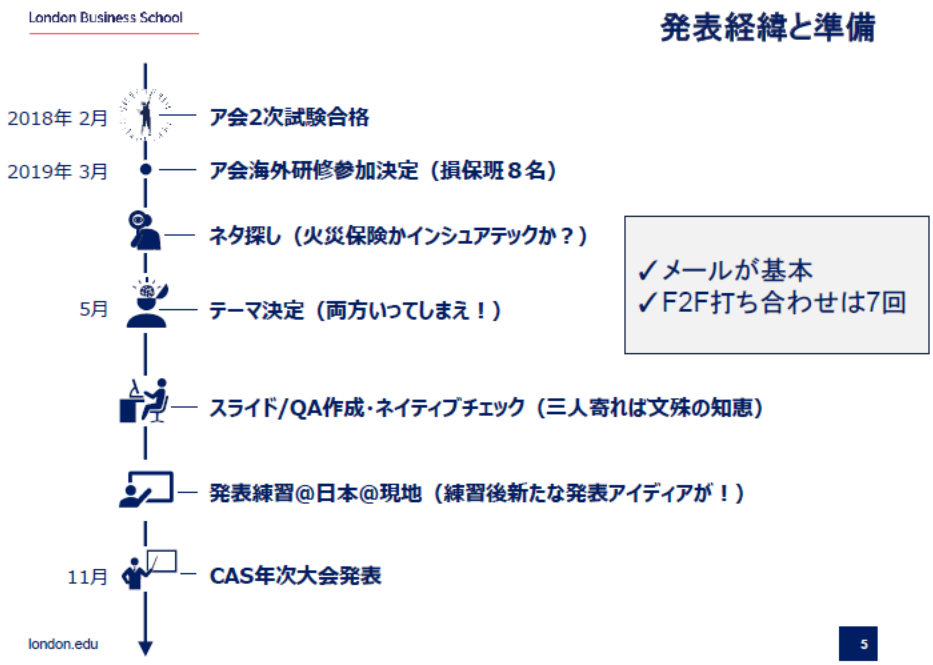
2013 年に損害保険ジャパンに入社しまして、そこから数年間、保険金サービス課と当社では呼んでいますが、いわゆる事故対応の部署におりました。こちらでは英語はあまり、やはり使わず、たまに横田基地の軍人さんが英語しかしゃべれなかったりするので、英語を使っていました。あとは、社内公募が実はありまして、社内公募で海外の短期研修に行ったり、海外子会社からマネージャークラスの方を呼んで研修を行ったりという企画もありましたので、それに参加して、１年に１回くらいは英語を使う機会を設けてきたというものです。

その後は、アクチュアリー関係の部署のリスク管理部に異動しまして、そこでは、中国子会社の保険計理人が２か月、研修で訪日しておりましたので、英語で少し話をしていました。そのあとのホールディングズでの業務では、基本的に英語の資料の読解や、メールの作成をたびたび行っていて、やはり年１で、海外の子会社のアクチュアリーたちとのカンファレンスに参加していました。途中で私は、ビジネス全体を理解したいと思いまして、社内のこれもまた公募で、海外の大学院受験、ＭＢＡ受験をしました。あとはその途中、やはりアメリカのビジネスを知りたいと思ったので、ＣＰＣＵの受験も、これもまた会社の補助金ありでしました。さらに、ア会の海外研修にも自分から手を挙げて参加して、アメリカのＣＡＳの年次大会で発表をしたものです。

また、今年１月から、グループ・チーフ・アクチュアリーとしてイギリス人を採用しましたので、日常会話に多少英語を使う環境があったことが、直近の英語環境です。そのあと８月か

らは、London Business School という私が現在通っている学校に通っておりまして、ここは日本人も多少いるのですけれども、66 か国 532 人の同級生と英語で勉強をしている毎日です。総括すると、英語環境が好きで、毎年社内の公募を活用して、関わる機会を設けてきた。ＴＯＥＩＣは 975 で、TOEFL は 106 なのですけれども、読み書きは中級、喋り書きは初級の人間がしゃべっているとご認識ください。

ここから、具体的な発表についてご紹介させていただきたいと思います。先ほど申し上げましたＣＡＳの年次大会がホノルルで行われまして、タイトルは「日本の火災保険の現状と課題」で、50 分の内容を発表してまいりました。



これをなぜ発表することになったかというと、そもそも、先ほども申し上げましたとおり、ア会海外研修に参加したいと手を挙げて参加しまして、まず損保班８名でネタ探しを行って、「火災保険か、インシュアテックをするか」と、うだうだと打ち合わせをしまして、テーマを決定して、両方いこうということになりました。それで、スライドの作成、ＱＡ作成、ネイティブチェックを行っていったうえで、最後は発表練習を日本と現地でそれぞれやって、発表にこぎつけたというものです。打ち合わせは、基本的にメールが主体で、たまに Face to Face の打ち合わせを行うといったものでした。発表練習も、面白かったことは、日本でやった後に現地でやったときに、練習後に、「こうしたら、もっと発表がよくなるんじゃないか」というアイディアも出てきたので、やはり複数名でやっていたことが、結構楽しかった部分ではございます。

さて、ここからは、発表のコツを三つ、ご紹介したいと思います。いかにして楽をするかということで、発表のコツの一つめは、先ほどから申し上げているとおり、みんなでやれば怖くないということで、スライドは全員で作成。想定問答、ＱＡももう全員で作成して、発表は２人で分担する。そうすると、50 分の発表でも 25 分と 25 分になるので、とても楽。質疑応答は、バックで控えている残りの６名が、一番下の写真に写っていますけれども、もう彼らをごらんください。この余裕の表情で、笑っています。そのようなことで、完ぺきな布陣でわれわれは臨めるということで、みんなでやることによって負担を軽減できるというよさがあります。

発表のコツの二つめは、参加者も巻き込んで、楽しく発表してみようということかと思いま

す。海外のアクチュアリー会の場合は、論文発表は多少別ですけれども、単純な内容の紹介などの場合は、なるべく参加者を巻き込む形で発表が行われることが多いです。一方通行にせずに、参加者に考えさせるという場面を設けると、参加者も盛り上がります。例えば、われわれの場合は、発表の途中で日米の火災保険料の違いを提示しまして、なぜこのような保険料の違いがあるのかを隣同士で話し合ってもらう時間を、数分設けました。そのうえで、参加者に、どのように思われましたかと意見を求める時間を設けたところ、かなり会場もざわざわと盛り上がったので、このように参加者と一体となって発表をすることで、かなり雰囲気もよくなりますし、また、自分の発表時間も減らすことができるというお得感がございます。

その他の注意点なのですけれども、なるべく口は大きく動かした方がいいと思います。ここで映している画像では、マスクをつけている人とサングラスをかけている人がいますが、今日のわれわれの発表もみんな、私以外はマスクをしていますけれども、日本人はマスクをよくする民族で、基本的に、目で語る民族なのですけれども、海外の人は、基本的に口で語ります。ですから、目を隠していることが多いわけです、サングラスをして。彼らは、われわれのしゃべっている口がどう動いているのかを見るので、口をなるべく大きく動かしてあげることによって、相手にも分かりやすい英語になる。

舌使いに関しても注意です。“th”の音などは、舌をなるべく出す。とにかく突き出すことをやる。あとは、これは経験則ですが、なるべく低い声で話してあげると、英語らしく聞こえます。“I can’t”（高音）としゃべるよりも、“I can’t”（低音）としゃべった方が、なぜか英語らしく聞こえるという経験則があります。あとは、抑揚をつけることです。日本語の場合は平坦なこともあるのですけれども、英語の場合は緩急をつけてあげることによって、より聞きやすいものになります。あとは、ジェスチャーを入れてあげるというものです。今日は、残念ながら私のスライドしか映っていないですけれども、本来であれば手を動かすなど、そのようなものも入れてあげることによって、より臨場感を出す。あとは、自分自身がとても楽しそうに発表することによって、参加者も自然と楽しくなるという風潮があるので、このような点を入れると、楽しく発表ができるというものです。

コツの三つめは、みなさんの質問でも挙がっていましたけれども、質疑応答は準備が大事かと思います。想定ＱＡを作成しておくと、かなり楽です。特に、専門用語は日本語で言えても、英語で分からないことがあるので、事前に調べてあげるとだいぶ気持ちも楽。これは、自分に余裕があればなのですけれども、想定ＱＡ用のスライドをバンバンと作りまくっておくとかなり楽です。それを表示して、あとは何となくしゃべってあげればいいので、だいぶ気持ちも、負担も楽になります。最悪、グラフや数値のみでもオーケーです。また、聞き取れなかったらどうしようということもあると思うのですけれども、聞き取れなかったら堂々と聞き返すことが肝かと思います。「何と言ったの？」、「もう一度、教えて」、「こういう意味ですか」と聞いてあげれば、向こうも、ゆっくり逆にしゃべってくれるなどもします。逆に、どうしてもわからなければ、質問し返してみる。「あなたはどう思いますか」と言って、逃げる手もあるのかと思います。

London Business School

わかりやすい英語のコツ

✓大事なことは先に言う
× You are cute, so I love you.
◎ I love you because you are cute.

✓Keep it short and simple（平均17 wordでMAX35）
× It is possible that you will win.
◎ You may win.

×give consideration to
◎consider

×undertake the implementation of
◎implement

-tion系は動詞で言い換えられることが多い

✓一つの文章にアイディアは一つ
× As an experienced fellow actuary with extensive work in reserving, I am contacting you to express my interest in the actuary position to grow my multi-cultural leadership.

9

さて、ここまでのところは、具体的な発表の内容でしたけれども、先ほどの横山さんからの説明は近代テクノロジーを駆使したものですが、私の方からは愚直な、泥臭い技法をより深く突っ込んで、話してまいりたいと思います。わかりやすい英語のしゃべり言葉のコツは、こちらに挙げておりますように三つあると思っておりまして、一つは、大事なことは先に言うことです。例文としては、“You are cute, so I love you.”はだめなのです。何を伝えたいかというと、“I love you”を伝えたいので、“I love you because you are cute.”が正しい。外国人の発想としたら、大事な内容が先にやってくると考えているので、最初が“You are cute”だと、あなたはかわいいと言いたいと思われてしまうので、大事なことは先に言うのだという発想に気をつけてください。

二つめのポイントは、ＫＩＳＳで「キス」と略しますけれども、“Keep it short and simple”、なるべく短くて、簡単な言葉で表すといいと言われています。これにも具体的な例文を出していますけれども、“It is possible that you will win.”と言うよりも、“You may win.”と３語でもう言えてしまう。他にも、“give consideration to”よりも“consider”と一言で言ってしまう。“undertake the implementation of”と言うよりも“implement”と言うことで、もう一発で済んでしまうのです。私もこれを最近教わったのですけれども、「何とか-tion」系は動詞で言い換えられることが多いそうなので、自分の発表のときに、「何とか-tion」という言葉が入っていたら、動詞で置き換えられるのではないのかと考えていただくと、だいぶすっきりした発表になるかと思います。

最後のポイントとしては、これもＫＩＳＳの続きですけれども、一つの文章にアイディアは１個しか詰め込まないということが、コツかと思います。ここにうだうだと書いてありますけれども、もう長くて、聞いていられない。読んでもいられない。いくつもアイディアを入れるよりも、「私はアクチュアリーなんだ」と言って、「リザービングをやっているんだ」と、それで、そのあとに違うことを言う。文章をきちんと区切ってあげることによって、簡潔に伝えていくことが、分かりやすい英語のコツなのかと思います。

では、具体的に英語をどのように勉強したらよいかという話を簡単に説明させていただくと、テクノロジーは無視して、もう頑張るという内容なのですけれども、まずは、単語を知らなければはじまりません。個人的にお薦めのものは、ＴＯＥＦＬというテストの「3800」という用語集があって、私もこれを去年の１月くらいから数か月、集中的に勉強したところ、英語のドラマやアニメなど、『シンプソンズ』というアニメでしたけれども、そのような子供向けの番組も、最初は理解できなかったのですけれども、これをやっただけで、ぐんと理解力が上がりました。あるいは、それほどテレビも見ないしドラマも見ないという方は、例えば、ＣＰＣＵのような海外の資格を勉強すると、実務にも役立つので、結構お得かと思います。

次に、単語が分かったら、相手に分かりやすい英文は何かということで、ＧＭＡＴというアメリカの共通一次のような試験があるのですけれども、それの“SENTENCE CORRECTION”という分野がありまして、分かりやすい文章の書き方を教えてくれるテキストがあるので、そのようなもので勉強する。あるいは、これはテクノロジーですけれども、grammarly という、英文をかってにいろいろと直してくれるソフトがあるので、このようなものを使うと、自分の英語がより洗練される。

あとは、会話が大事かと思いまして、10 分でいいので毎日続ける。最近は、ＤＭＭ英会話や Cafetalk といったものがありますので、私は少しさぼりがちなので、なかなか続かなかったのですけれども、周りの同期や友達からは、「やはり 10 分、毎日続けるだけで、本当に半年、１年で明らかに違う」という声をかなり聞いています。ちなみに、彼らから聞いた話ですけれども、発音が分かると、リスニング力も上がると聞きました。どのようにしゃべればいいのか。“th”の音をどのように出すのか。“ｒ”や“ｌ”のサウンドにどのような違いがあるのかということが明確に分かるようになると、相手が何を言っているかも分かるようになるということなので、発音が分かるだけでリスニング力も上がるので、ぜひ会話は毎日、続けていただくといいのかと思います。

さて、だいぶまじめな話になってしまったので、ここからは、なぜ国際学会は楽しいのかという話を少ししたいと思います。こちらの楽しさは、まず異文化体験です。現地のカルチャーを知ることができ、ご飯を知ることができ、風景もきれいです。もう見るからに、これは楽しいです。これはホノルルに行ったときですけれども、本当に楽しかったです。

さらに楽しいことは、ネットワーキングです。国際学会、あるいは人と人の関係は、やはりネットワーキング命で、特に国際学会の場合、外国人の場合は、このネットワーキングに力を入れています。これはＣＡＳでの写真ですけれども、海外子会社の同僚と会ったり、もしくは、

海外研修に行った損保班８名での写真を撮っていますけれども、１名は他の海外からのこの大会の参加者が混ざり込んでいますけれども、このように話をする機会があったりする。国際学会の場合は、発表の合間、合間に、必ず coffee chats の時間がありまして、ドーナツが大量に用意されていて、コーヒーも飲み放題。ここで、見知らぬ人と、「さっきの発表どうでしたか」、「何か面白い発表はありましたか」、「どこの国から来たんですか」という話を咲かせる。あるいは、朝食なども、みんなで一緒に取る。さまざまな場面、場面でネットワーキングをする機会があるので、これで新しい文化を知る。新しいカルチャーを知る。そして、新しい保険数理に関する知識を得るという素晴らしい機会があるので、これもまた楽しさの一つなのかと私は考えております。

そうは言っても、そのような Social な活動は無理だ。少し自信がないという方に対して、最後のティップスをこちらで紹介したいと思います。こちらには、私がこのイギリスのＭＢＡに来て、London Business School に来て学んだことを挙げております。ＭＢＡの場合は、やはりネットワーキングに命を懸けているところがありまして、もう朝ご飯からブランチ、さらには、一緒のお勉強会ということで、study group で一緒に勉強したり、home party を開いてしまったり、pub crawl と言って、飲み屋をはしごする。そのような Social のイベントが大量にあるので、そこで得られた気づきをご紹介したいと思います。

一つは、テンション高めで大きな声で喋ると喜ばれます。“Lovely！ Cute！Thanks！”と、幼稚園児のような単語ですけれども、このような言葉でもいいので、とにかく自分の感情表現をしてあげることが大事です。また、自分の意見を言うこともとても大事なのですけれども、難しかったら、とりあえず質問を投げてみることも効果的です。“How was today’s session？”など、ちょっとした相手に感想を聞くことが大事かと思います。

最後に注意点ですけれども、日本文化・業界を語れるようにしておくと、さらに話が盛り上がります。私が１か月前に同級生から聞かれて、びっくりしたことは、“What can you say about

Shinzo resigning？”と言われて、「え、日本の首相のことについて興味があるんだ」と、非常にびっくりしました。世界では、やはり日本の動向がかなり気になっている方も多いので、そのようなちょっとした自分の保険業界から離れた話や、もしくは年金業界を離れた話ができると、盛り上がります。

さらに、最後の例はＣＡＳの年次大会で聞かれた質問ですけれども、“What are you proud of being an actuary in Japan？”、日本のアクチュアリーとして何を誇りに思っているのですかという質問を投げかけられて、私は答えられませんでした。このような本質的な、自分は何者なのかという答えをやはり用意しておくことで、相手と対等に、Social な場で話をしていくということが大事なのかと思います。

さて、ここまでで、私の言いたいことは一通り網羅しまして、どうでしょう。最初、みなさんにお見せしたスライドでは、１人しかいなくて、不安と思っていたところ、今日の私の発表を聞くことによって、「人数を増やせばもう余裕ではないか」、「安心した」、「ああ、海外のネットワークに興奮してきた。もう圧勝です」という気持ちにみなさんがなっていただけたのなら、幸いですということで、私の発表を締めさせていただきたいと思います。ご清聴をありがとうございました。

勝野　小西様、ありがとうございました。

現在、Live polls での「英語で論文発表をしたいですか？」という質問に対して、58%、50 名弱くらいの方に「YES」と回答いただいています。今「NO」と回答されている方も、回答は途中で変更可能ですので、もしよろしければ変更いただければと思います。

会場からの質問で小西さんに特有のものはございませんので、例によって、私から質問させていただきたいのですが、私は Twitter をやっておりまして、小西さんのプレゼン資料を見たある方から「ＴＯＥＩＣが 975 点で、読み書きは中級、喋り書きは初級というのは、謙遜ではないか」というコメントがあったのですが、これは、日本人特有の謙遜なのか。そうでなけれ

ば、このように感じられる理由について、お話しいただけますでしょうか。

小西　これは、謙遜ではなくて、世界で見たときの事実です。ＴＯＥＩＣができたところで、みなさん、やはり喋ることと、聞いたりすることは別だという話もよくあると思うのですけれども、やはり完全に別物です。ＴＯＥＩＣは特に、きれいな英語の読みと読解、単語がメインになりますので、いかにしてうまい文章を書くか、自分の意見を表現するか、そして、喋るかとは完全に別問題で、特に私が今、ロンドンに住み始めまして思ったことは、もう英語圏の国以外、例えば、アルゼンチン、インドネシア、アフリカなどの方々は、非常に流ちょうな英語をしゃべられます。そして、文章も書かれます。日本人のスキルは、残念ながら平均的なレベルが低いと感じておりまして、私自身も、先ほどの点数ですが、困っている状況ではあります。

ただ朗報は、私の日本人同級生でも、ＴＯＥＩＣの点数が低くても、喋りはもうバンバンいける。もうバンバン、飲み会も楽しく盛り上げられるという同級生もいますので、あのようなテストものとコミュニケーション能力は一定、別物なのだと感じているところではあります。そこは、テストの点数が悪いからといってマイナスの気持ちになるのではなくて、もうコミュニケーションツールなのだと割り切ってしまうことがポンイトなのかと考えている今日この頃です。

勝野　小西様、どうもありがとうございました。

続きまして、鈴木様からプレゼン発表をお願いしたいと思います。

2020年度 日本アクチュアリー会 年次大会

さあ、論文を書いてみよう！

2020年11月6日
プルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命保険株式会社
数理チーム 鈴木 理史

鈴木　よろしくお願いします。プルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命の鈴木理史と申します。私からは、「さあ、論文を書いてみよう！」ということで、論文にフォーカスした内容についてお話しさせていただきます。

略歴

2013年　新卒で国内再保険会社に入社
2014年　日本アクチュアリー会正会員資格を取得
2015年　CERA資格を取得
2016年　現職 プルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命入社

〇主な仕事内容

再保険会社時代	生命再保険の保険引受リスク管理
現職	日本会計、USGAAP会計、再保険業務
	保険負債の将来収支予測
	将来収支前提の作成　……等々

2

簡単に私の略歴を申し上げますと、2013 年に新卒で国内の再保険会社に入社し、生命再保険を担当しました。その後、日本アクチュアリー会の正会員資格、ＣＥＲＡ資格を取得した後、現職のプルデンシャルジブラルタファイナンシャル生命に入社しました。現職に入社して以降、

委員会活動や個人の研究活動等に力を入れて、論文発表などをしている感じです。主な仕事内容としては、再保険会社時代は、生命再保険のリスク管理、現職では、日本会計、ＵＳＧＡＡＰ会計、再保険等々、商品数理以外の幅広い分野を担当しています。

2020年5月　光の都パリで論文発表！

他のパネラーの皆様と同じように、私も 2020 年５月、パリでの ACTUARIAL COLLOQUIUM で発表の機会をいただきました。論文がアクセプトされたときは非常にうれしかったのを覚えています。もちろん論文が認められたこともうれしかったのですけれども、パリと言えば光の都と言われまして、海外旅行でも非常に人気のある場所ですね。シャンゼリゼ通りを歩いたり、凱旋門を見たり、あとは現地のアクチュアリーと会う約束もしたりしておりまして、非常に楽しみにしていました。ですが、今年５月は、皆さんご想像のとおりで、COVID-19 の影響でリモート開催になりました。

……の予定でしたがCOVID-19でリモート開催に

動画を自宅で撮影し、Actuviewへ投稿。（現在も配信中*）

4 ▶ *https://www.actuview.com/modeling-multi-country-mortality-dependence-by-a-vine-copula_d629c28ba.html

歴史のある COLLOQUIUM の中でリモート開催は非常に珍しく、かつ、動画を撮影して Actuview へ投稿したので、1 回限りの発表ではなくて、ずっと発表が残り続けるとても名誉な発表をして、大変ラッキーだったかなと思っております。（笑）次の国際会議は、もうラッキーなことはごめんなので、直接やってみたいなどと思っている次第です。この COLLOQUIUM はもう終了したのですけれども、Actuview の動画はまだ配信されています。もしご興味のある方がいたら見ていただきたいのですけれども、私はそれほど英語が得意なわけではないですし、先ほどプレゼンされた小西様や横山様のように、別に英語の発音もよくないです。見ていただくと、このくらいの英語力で英語の論文も書けるし、英語の発表もできるのだと、少しハードルを下げるような感じになるのかと思うので、ご興味があればご覧ください。

皆さん、実は国際会議で発表したいですよね？

国際会議での論文発表に興味があるという人は結構多い。

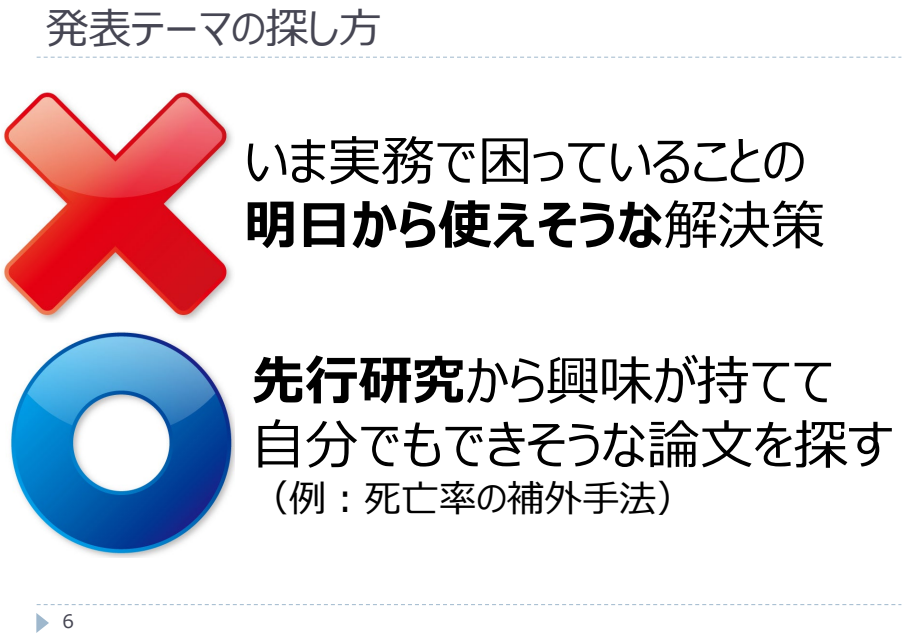
今日発表を聞きに来ているということは、少しは興味があるはず。

でも論文なんて修論（卒論）以来書いてないし、どう書けばよいのかわからない……という人も多いはず。

⇒実体験を踏まえて**論文の書き方**を考えていきたいと思います！

5

先ほどのアンケートでも 6 割弱くらいの方、50 人弱くらいの方が論文発表に興味があるということでした。そして、11 月の業務時間のお忙しい中、特にアクチュアリー試験をまだ受けられている方は試験前のお忙しいときに、今日、このセッションを聞きに来ていただいたということで、皆さん、論文を書きたいという気持ちを強く持たれているのだと思います。ただ、論文を書いてみようにも、多くの方が修士論文、人によっては学士論文を書いて以来書いていないので、どう書けばいいのかがわからないという方が多いんじゃないかと思います。特にアクチュアリアルの論文になると、勝野様のように、4 回書かれている方もいらっしゃいますが、基本的には、初めて書く方が多いかと思います。そのようなわけで、今日は、私の実体験を踏まえながら、論文の書き方をお話ししたいと思っています。



いきなり結論から申し上げるのですが、いま実務で困っていることの明日から使えそうな解決策を何か考えようと言うのはあまりおすすめしません。ただし、誤解のないように申し上げたいのですが、決して、論文の価値が低い、質が悪いということを言いたいわけではありません。実務につながる論文を書くことは素晴らしいことだと思いますし、すぐに応用できるものは素晴らしいものだと思うのですけれども、初めて論文を書く方がこのようにテーマを探すと、非常に苦労をするということを、実体験を踏まえて伝えたいと思っています。そうではなくて、初めて論文を書くのであれば、先行研究から自分が興味を持てて、自分でもこれくらいなら行けそうだという論文を探してみる。このようなアプローチが、個人的にはおすすめかと思っています。例えば、一例を挙げると、死亡率の補外方法が良いかと思います。、学者の方もたくさん研究していますし、社会保障の方も研究していますし、アクチュアリーの実務にも近いということで、このような論文を読んでみて、テーマを探すといいかなと思っています。

過去の論文発表

（日本アクチュアリー会年次大会）

2017年　終身医療保険に内在する長寿リスクに関する考察

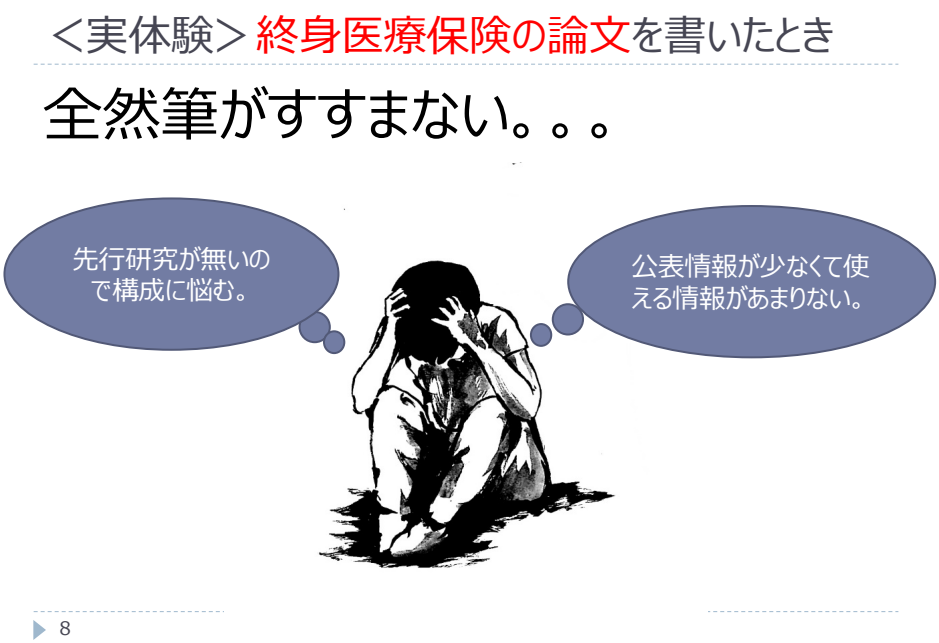
2019年　Vine copulaを用いた他国間の死亡率の従属関係のモデル化

（IAA Section Colloquium）

2020年　Modeling Multi-country Mortality Dependence by a Vine Copula

7

先ほど、実体験と申し上げたのですけれども、私は論文発表を２回していまして、2017 年に日本アクチュアリー会の年次大会で、「終身医療保険に内在する長寿リスクに関する考察」というテーマで発表させていただきました。これは、別にこのときに実務で困っていたことではないのですけれども、一アクチュアリーとしての実務上の問題意識から出発して書いた論文です。2019 年は、「Vine copula を用いた他国間の死亡率の従属関係のモデル化」というテーマで発表させていただきました。こちらは、元々Vine copula の論文をＡＳＴＩＮ関連研究会で輪読しまして、その中で興味を持ったものを深掘りしたというものになります。こちらの論文を英語にして発表したものが、先ほど申し上げたＩＡＡ Colloquium での発表になります。



この終身医療の論文を書いたときなのですが、全然筆がすすみませんでした。この絵は少しオーバーですけれども、本当に苦労しました。別にペンと紙で書いているわけではなくパソコンに向かってキーボードを打つのですけれども、書いては消して、書いては消して、構成を練り直して、何度も計算をやり直すなど、そのようなことをして、非常に苦労したことを記憶しています。そこで、今になって、なぜうまくいかなかったのか、大変だったのかと考えてみました。一つは、終身医療の論文となると、先行研究があまりないのです。先行研究がないので、あまり参考にできる論文がなくて、構成にまず悩み、一から作らなければいけない。あとは、公表情報が少なくて使える情報があまりないので、自分からいろいろなデータを作り出さなければいけないというところで、データを作る作業をするところに非常に手間がかかりました。

先行研究から始めた方が良い理由

- 「いま実務で困っていること」は**ドメスティックすぎて国際会議でウケない可能性**がある。（国際会議はRejectされることもあります）
- 論文を英語にするとき**先行研究の構成やフレーズを真似るといつの間にか立派な論文**ができる。（完全コピペは盗作なので注意）
- **芋づる式に参考文献**が大量に集まってくる。
- 執筆中に「これって機密情報じゃね？」となるリスクを回避できる。
- 純粋に勉強になる。

9

先行研究から始めた方が良い理由をまた申し上げますと、まず「いま実務で困っていること」にあまりフォーカスしてしまうと、ドメスティックすぎて国際会議でウケない可能性があると思っています。国際会議では、論文を出しても必ずアクセプトされるわけではなくて、リジェクトされることもあります。実は、私は、この終身医療の論文を書いた後に、別のアクチュアリーの方から、「今度、国際会議があるんだけど、発表してみたら？」という声かけをいただいたのですけれども、お断りしました。というのも、終身医療保険は、あまり世界的には一般的な保険ではなくて、結構ドメスティックな話なので、国際会議で発表しようとすると、日本にこのような商品があって、このようなところが問題でという話になってきて、果たして、他の国のアクチュアリーの方が興味を持って聞いてくれるかを非常に不安に思って、辞退させていただきました。今になって思えば、せっかく機会があったのだから積極的に手を挙げればよかったと後悔はしているのですけれども、国際会議を目指すとなると、もう少し広いものを扱った方がいいのかと思っています。

また、英語の論文にすることには、テクノロジーを駆使するといろいろと楽にいけるところもあるのですが、非常に手間がかかります。そのときに、先行研究がたくさんあると、先行研究の構成や使われているフレーズをうまく真似て作ると、形としてはそれなりに立派な論文ができます。それから、テーマの元となっている先行研究がありますので、参考にした先行研究の参考文献は当然、全部使えます。さらに、参考文献の参考文献を当たっていくと、どんどん、どんどん、芋づる式に参考文献が集まっていって、参考文献集めにも苦労しません。あとは、執筆中に、あまり実務に近いことを書くと、自分の実務の話をしたくなってきて、「これって機密情報なんじゃない？」と少し不安に思うことが出てくることがあるのですが、そのようなリスクも回避できます。あとは、純粋に勉強になるかと思っています。

＜実体験＞Vine copulaの論文を書いたとき

Vine copulaの先行研究がある！！
⇒Vine copulaの基本的な説明や、論文構成はそのまま使える。

死亡率とコピュラの先行研究だけで盛りだくさん！！
⇒いつのまにか参考文献が20個くらいに。

“VineCopula”というRのパッケージがある！！
⇒プログラムの実装はRパッケージを組み合わせでいける。

10

実際に Vine copula の論文を書いたときは、まず、Vine copula の先行研究がたくさんありました。数学系の方もたくさん研究しているので、そのような方の論文の Vine copula の基本的な説明や論文構成をそのまま使うことができました。それから、死亡率とコピュラは、どちらも研究が盛んな分野なので、参考文献集めにも苦労せず、いつの間にか、20 個くらい参考文献が集まりました。それから、私は研究にはＲを使ったのですけれども、“VineCopula”というＲのパッケージがあるので、プログラムの実装はこのパッケージの組み合わせで行うことができました。私はあまりプログラミングが得意ではないので、一からプログラムをごりごりと書いていくことは結構大変かと思っていて、このようなＲのパッケージがあることが非常に助かりました。

研究の手順（一例）

- 興味ある分野（死亡率、機械学習、リスクの従属性等……）の論文をたくさん読んでみる。（ASTIN Bulletin*とかオススメです）
- 先行研究で使われていた手法を身近なデータ（日本の死亡率とか患者調査とか）に使ってみたらどうなるか考えてみる。
- RとかPythonとかで実装してみる。
- 結果を日本語で簡単にまとめてみる。

⇒ハイ、これで年次大会で十分発表できるレベルです！！
（英語にすれば国際会議で発表できます！）

11 *国際アクチュアリー会（IAA)のジャーナル。損保だけでなくアクチュアリアルな広範囲な領域をカバー。
アブストラクトの和訳をASTIN関連研究会が作成し、ア会のアクチュアリージャーナルに掲載している。

そのようなことを踏まえて、研究手順の一例をご紹介しますと、まず興味ある分野、死亡率でもいいですし、はやりの機械学習でもいいですし、リスクの従属性でも良いですが、論文をたくさん読んでみてください。個人的には、『ASTIN Bulletin』がお薦めです。こちらは、国際アクチュアリー会のジャーナルです。ＡＳＴＩＮは損保の学術セッションですけれども、損保だけではなく、アクチュアリアルの広範の領域がカバーされています。あとは、私が所属しているＡＳＴＩＮ関連研究会で、こちらのアブストラクトの和訳を作成して『アクチュアリージャーナル』に載せてありますので、アブストラクトだけだったら日本語で読めます。ただし、これを１人で読むと心が折れるので、仲間内のアクチュアリーを集めて輪読をしてみるなどをおすすめします。一番いいのは、委員会に入ってしまって、研究活動として行ってもらうことだと思います。そうすると、委員会のサポートを受けることもできるので、それが個人的にはお薦めです。

先行研究の中で、なかなかよさそうなものがあったと思ったら、それを身近なデータ、例えば、死亡率や患者調査などに使ったらどうなるのかを考えてみる。何かうまくいきそうだ、やってみようかと思ったら、ＲでもPythonでも何でもいいと思います。自分の書けそうな言語で実装してみて、何か結果を日本語でまとめてみて、これで、私個人としては、十分年次大会で発表できるレベルと思います。これを英語にすれば、十分国際会議でも発表できるような論文になるかと思っています。

例えば今から始めるなら……

先行研究：〇国の死亡率データに〇〇という手法を使ってみました。
⇒日本のデータで全く同じことをするだけでも立派な論文！！

先行研究：株価のデータに〇〇という手法を使ってみました。
⇒同じ手法を死亡率に使うだけでも立派な論文！！

なんか自分も書けそうですよね？？

12

例えば今から始めるのなら、具体的にどのようなことかというと、例えば、先行研究で、「〇〇国の死亡率データに〇〇という手法を使ってみました」というものがあったら、日本のデータで全く同じことをするだけでも立派な論文だと思います。「株価のデータに〇〇という手法を使ってみました」という研究があったら、同じ手法を死亡率に使うだけでも立派な論文だと思います。ただし、もちろん論文なので、トラディショナルな手法ではどのようなところがまずくて、この方法だとどう解決できるか、逆に方法にはどのような弱点があるかなどという考察は必要です。けれども、皆さんが手を動かすという意味では、これだけやれば、十分論文になると思います。アンケートで論文を書きたいとおっしゃっていた方々、何だか自分でも書けそうな気がしてきますね。

アクチュアリーが研究活動を行う意義（私見）

実務で行われている手法は数あるうちの1つの手法でしかない。

「こんなやり方もできる」、「あんなやり方もできる」と知ったうえでその方法を選ぶことと、その方法しか知らないで行うこととは大きな差がある。

研究活動の中でしか使われていなかったような手法が十年以上後に実務のスタンダートになっている可能性も十分にある。

研究活動を通じて得た知見は**必ず実務にも生きる**はず。

13

私から申し上げたいことは大体申し上げたのですけれども、最後に立ち返って、なぜアクチュアリーが論文を書くのだろうかということを、私見として申し上げさせていただきます。実務の手法にはある程度定まった形があると思うのですけれども、このような手法は数多くあるうちの一つでしかないと思っています。その中で、「こんなやり方もできるんだよな」、「ああいうやり方もできるんだよな」ということを知ったうえで、今の実務の手法を選ぶことと、「前任の方から引き継いだ」、「過去、そうしているから」という理由で元々ある手法を選ぶことには、大きな差があると思っています。このような引き出しをたくさん作ることが、アクチュアリーの研究活動なのかと思っています。また、研究活動がアクチュアリーの実務に影響を与えることも多くあると思います。昔は、研究活動でしか使われていなかったような手法が、10年以上後に実務のスタンダードになるような例もあると思います。例えば、身近なところだと、私の理解では、責任準備金の時価評価の分野などは、学術的な研究の中から実務にだんだん浸透してきたと思っています。

そのようなことを踏まえて、研究活動で得た知識は、必ず実務に生きるはずだと思っています。皆さんがアクチュアリーとしての専門性を深めるために、論文発表をしていただけることを願っております。私からは以上です。

勝野　鈴木様、ありがとうございました。

例によって、私から一つ質問をさせていただきます。「年次大会で十分発表できるレベルであれば、国際会議でも発表できる」という話がありましたが、日本の年次大会と国際会議とを比べて、レベルなどの観点から、鈴木さんがどのように感じられているか、思われているかをお話しいただければありがたいです。

鈴木　私はアクチュアリー会の海外研修で、2015 年だったと思いますけれども、ＩＦｏＡの

Life Conferenceに参加してまいりました。当時、英語もそれほどできなかったので、なかなか聞き取りは難しかったのですけれども、日本のアクチュアリーはそんなに負けていないなという感想を思ったことは覚えています。日本のアクチュアリー会の年次大会で発表されている方は、非常にいい発表をされている方がたくさんおりますので、自信を持って国際会議にチャレンジしてほしいと思っています。英語というハードルはあるかもしれないのですが、日本の年次大会で発表されている論文をもとに国際会議に手を挙げていいのではないかと思っています。

勝野　鈴木様、ありがとうございました。

では、パネルディスカッションと言いつつ、ディスカッションの時間が残り 10 分少々しかないのですけれども、会場からの質問を、人気の高いものから順に皆様に投げかけたいと思います。一つめの質問は、「海外での発表は、海外に行けて、フリータイムの観光とかいろいろとありますけれども、日本の国際会議では、そういったモチベーションが減ってしまいます。その中で、ＩＣＡ２０２６の日本でのモチベーションですとか楽しみとして、思うことをお聞かせいただきたいです」という質問です。パネラーの皆様には、「ＩＣＡ２０２６東京で発表をしたいか」ということと併せて、ご回答をお願いできればと思っております。では最初、横山さんからお願いします。

横山　ご質問のとおりで、海外に行けるという魅力が一つ、なくなってしまうところはあると思います。ＩＣＡ２０２６に限らず、２０２３のシドニーなどを目指すと、海外に行けるとは思います。

２０２６に論文を出したいかというところでいくと、ぜひ私も出したいと思っています。やはり１回、海外で発表をしていますので、そのあたりは非常に自信がついたので、何かしらまたゆっくりネタを探して、研究活動をできればとは考えています。

勝野　ありがとうございます。続いて、小西さん、お願いします。

小西　小西です。私が感じていることは、二つあると思いまして、魅力の１点めは、外国人とのネットワークの機会は減らないので、ネットワークができることは一つの魅力なのか。二つめは、逆に日本の魅力を再発見する場面でもあるのかと思います。外国人の方から、「どこのラーメン屋さんがおいしい？」、「どこの寿司を食べに行けばいい？」と私自身もよく聞かれるなどするので、そのようなことを自分でまた探してみると、日本にこのような楽しい部分があるのだということも学べるので、前向きに、そのようないい点もあるのかと考えております。

質問に対して、発表をしたいかということですけれども、やはり損保アクチュアリーとして、損保の存在感を高めていきたく思いますので、ぜひ発表をしたいです。以上です。

勝野　小西さん、ありがとうございます。続いて、鈴木さん、お願いいたします。

鈴木　海外に行けないことは、確かにモチベーションダウンとしては大きいと思うのですけれども、発表をした方が、個人的には、国際会議を楽しめると思っています。先ほど申し上げたように、2015 年のＩＦｏＡでの Conference に参加したんですけれども、そのときに発表に参加しなかったことを結構後悔しています。発表をすると、そのあとのドリンクセッションなどで、「発表を聞いて、面白かったよ」という話をしてもらえたりすると思います。いいものを発表したら、そこからつながりができたりすると思います。あとは、自分の達成感のような意味でも、国際会議に出るのであれば、ぜひ発表をすることがとても大事なことかと思っています。

あとは、ＩＣＡ２０２６ですが、私も発表をしたいと思っています。このＩＣＡ２０２６が決まったときは、もう数年前だと思ったのですけれども、決まった瞬間、「よし、発表をしよ

う」と思いました。やはり一つ、一アクチュアリーとしての専門性といいますか、日本のアクチュアリーもこれだけやれるというところを見せたいというモチベーションを持っています。

勝野　ありがとうございます。最後に、遠田さん、よろしくお願いします。

遠田　遠田からですけれども、東京大会はホームでの開催ということなので、海外での発表よりも少しハードルが低いかなと思っています。発表する日本人の枠も多分多いと思いますので、そのような機会で一度発表をすると、そのあと、さらに２回目、３回目に行くときのハードルが下がると思いますので、ぜひ東京大会で発表されると良いかと思います。

私自身はどうかといいますと、機会があればありがたいのですが、私としては、若い人にぜひ発表してほしいと思っていますので、後押しができればいいかなと思っています。

勝野　遠田さん、ありがとうございます。Live polls でも、50 名くらいの方が英語で発表をしたいと言ってくださっていますので、ＩＣＡ２０２６は 100 名が目標と私は申し上げましたが、概ね半分くらいは達成できているのかと、少し勝手に思っています。

続いて、次の質問にまいります。「ＩＣＡ２０２６で、英語で論文を発表する。また、海外でアクチュアリーとして活躍する人を増やすために、今後、日本アクチュアリー会が取り組んだらよいことは何でしょうか」という、アクチュアリー会への要望で、少し答えにくいところがあるかもしれませんが、何か思うところがありましたら、ご回答をお願いできればと思います。最初に小西さん、お願いいたします。

小西　日本アクチュアリー会として取り組んでいただきたい、もしくは、日本のアクチュアリー会員が取り組むべきことと思っておりますことは、英語へのハードルをなくすということかと思います。やはり日本の場合、日本のアクチュアリー試験などはもう全部日本語ですけれども、他のアジアの国の人たちやヨーロッパの人たちは、アメリカのアクチュアリー試験、ＳＯＡやＣＡＳを英語で受けているので、彼らは英語に対して万能なのです。一方、日本はだいぶレベルが高いので、日本語ですべて資料がそろってしまっている。日本語で全部済ませてしまいがちですけれども、それを一歩乗り越えて、英語環境になるべく身を置くようにすると、だいぶレベルが上がるのかと考えております。

勝野　ありがとうございます。続いて、鈴木さん、よろしくお願いします。

鈴木　委員会から国際会議への派遣の枠が増えるといいのかと、個人的には思っています。やはり１回国際会議に参加してみて、国際会議の雰囲気を感じることは、自分が発表しようと思うモチベーションを持つ強いきっかけの一つになると思っています。なかなか委員会として出すことは難しいのかもしれないのですけれども、そのような若い方の派遣の枠が増えると、ＩＣＡ２０２６に向けて、モチベートできるかと思っています。

勝野　ありがとうございます。続いて、遠田さん、よろしくお願いします。

遠田　私からは、アクチュアリー会への要望ということではないのですけれども、われわれアクチュアリーがやるべきことという観点で、やはり日本の状況を世界にどんどん発信できると良いと思っています。先ほど私のところで少しお話をしましたけれども、高齢化が日本では進んでいて、先進国トップで注目されています。この観点から発信できると、日本のアクチュアリー会のプレゼンスが上がると思います。現在もそのような取り組みをしていただいているところではあるのですが、皆さんにもそのような観点で発表をしていただけるといいと思います。

勝野　ありがとうございます。最後に、横山さん、よろしくお願いします。

横山　基本的には鈴木さんと同じ考え方で、委員会のサポートが私にとっても非常に大きかったので、そのあたりのサポートを得られるような、あまり大きすぎない組織が、非常にあるといいとは思っています。

勝野　ありがとうございました。
　続いて、次の質問にまいります。「皆さんは、研究、論文執筆、学会発表などについて、会社からのサポートはどれくらいありますか。個人的には、業務時間の一部を使って研究活動を行ってよいのであれば、英語発表に向けて頑張ってみようかなど思えますが、実際は会社のサポートは全くなく、プライベートな時間を犠牲にしてまでやろうとは思いません。ご意見を伺いたいです」ということで、最初に、鈴木さんから、お願いします。

鈴木　個別の会社のことはなかなか、その会社の事情があると思うのですけれども、一つは、委員会からのサポートという意味ではあるのかと思います。アクチュアリー会の委員会の時間は勤務扱いで、勤務時間としてくれている会社が多いと思います。ですので、委員会に入って、委員会として研究活動をするとなると、業務時間の中でもできることになると思います。「委員会として必要だから」ということであれば、会社にも言いやすいのかと思います。

勝野　ありがとうございます。続いて、遠田さん、よろしくお願いします。

遠田　今の委員会の観点では、鈴木さんと同じ意見で、委員会等に入れば、その時間は業務として活動できることが多いと思います。ただ、論文の執筆自体を業務時間中に行うのは、実際難しい会社が多いと思いますので、そこは少し自分の時間を使ってやらなければならないところもあるかと思います。ただ、自分の時間で論文の発表をしてきたことを、会社は評価してくれると思いますので、その点では会社に認められるのではないかと思います。

勝野　ありがとうございます。続いて、横山さん、お願いします。

横山　私の実際のケースだと、会社の時間ですべてやっていました。当時、年金コンサルティングというところで、非常に業務のしかたに裁量がありました。あとは、繁忙もあまりかぶっ

ていなかったこともありましたので、うまくそこを割り当てたという点です。もちろん、会社がそれによって業務を減らしてくれたというところではないのですけれども、やはり人間ですので、そのあたりは何かしらの配慮は、非常に大量の仕事が降ってくるなどというところは、もしかすると、会社さんにもよると思うのですけれども、避けられるかもしれないので、できるだけやりたいということを、しっかり会社の中でも周知しておくことが大事かと思います。

勝野　ありがとうございます。最後に、小西さん、よろしくお願いします。

小西　私もサポートは明確にはなかったのですけれども、先ほど皆様がおっしゃられたように、アクチュアリーは裁量がある仕事だと思っておりますので、自分で業務時間中に時間を見つけて、さっとやっていたということが現状です。さらに加えていうと、コロナでテレワーク等が進んでいますので、自分の裁量がさらに増えている状態だと思うので、そこをうまく、どう使っていくかが、社会人としての腕の見せどころなのかと思っております。以上です。

勝野　ありがとうございました。
　では、最後の質問です。「仕事が忙しい中、どのように英語の勉強をしましたか」という質問です。今お話しいただいたことも踏まえて、仕事やプライベートなどそのような中で、英語の勉強や、論文執筆もそうですけれども、どのように時間のコントロールをしたかといったところについて、お答えいただければと思います。では、遠田さんから、お願いします。

遠田　まず時間をどう捻出するかという観点です。私は、１回目の発表のときは、結構時間を使ってやったのですけれども、２回目のときは、元の論文がアクチュアリー会の年次大会のものがあったこともあり、先ほどの横山さんの発表と同じで、テクノロジーといいますか、Google翻訳を使いましたので、少し節約できました。あとは、皆さんと意見が違うかもしれないですけれども、英語の発音にはこだわりすぎないでやるということがいいのかと思います。

勝野　ありがとうございます。続いて、横山さん、お願いします。

横山　業務が忙しい中というとことはあるのですけれども、私は、アクチュアリー試験に合格してから、英語を勉強したいという若干のモチベーションがありましたので、少しだけはやっていました。そこに論文発表が決まったので、よりペースを上げていった。大体１日２時間くらいは、早朝や夜に単語を覚えたり、発音の練習をしたり、そのようなことをやっていました。

勝野　ありがとうございます。続いて、小西さん、お願いします。

小西　私からは、モチベーションということで、２点挙げさせていただきたいと思います。一つは、目標を作ること。例えば、論文を書く、もしくは資格もの、ＣＥＲＡやＣＰＣＵなどをとにかく取るのだと決めれば、もうかってに、勉強せざるをえないのでしていく。二つめは、先行投資をしてしまう。お金を先に払ってしまう。サブスクです、いわゆる。それをすると、

もう払ったので行くしかない。回収せねばという気持ちがわくので、そのような先行投資をしてしまうことによって、自分を追い込んであげることができるのかと考えております。

勝野　ありがとうございます。最後に、鈴木さん、よろしくお願いします。

鈴木　まず、英語のモチベーションという意味では、なるべく業務や自分のキャリアにつなげていくということが大事なのかと思っています。なかなか英語を勉強しても、勉強をして何に使うのかというのがはっきりしていないと、勉強が進まないと思います。なるべく会社の中で英語を使う業務を引き受けるとか、英語を勉強してどのようなキャリアを築いていくのかということをイメージすると、自分のモチベーションにつながると思います。私自身も、会社の中でなるべく英語に関わる仕事を引き受けるようにしています。また、英語の勉強は、Skype などを使ったリモートの英会話教室をやっていて、そちらで勉強をするなどしています。

あとは、執筆自体のモチベーションを保つことについては、先ほど小西さんもおっしゃっていましたけれども、もうゴールを決めてしまう、すなわちここで絶対に発表をするのだと決めてしまうのが良いと思います。さらに言えば、進捗管理といいますか、途中の中間発表の日程も決めてしまうと良いと思います。どうせその１か月くらい前になると焦って動き出すことが多いと思いますが、人間はなかなか直前にならないと動き出さないので、途中のマイルストーンを決めてしまうと、モチベーション維持といいますか、勝手に手が動いていくのかと思っています。

勝野　鈴木さん、ありがとうございました。

それでは、お時間となりましたので、このパネルディスカッションを終了したいと思います。視聴者の皆様、質問をいただいた皆様、パネラーの皆様、どうもありがとうございました。